明治四十四年八月一日創刊
大正七年十二月一日第三種郵便物認可
（大正十年十一月十日印刷）
（大正十年十一月十日發行）
（毎月一回十日發行）

男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

6－345

廓清

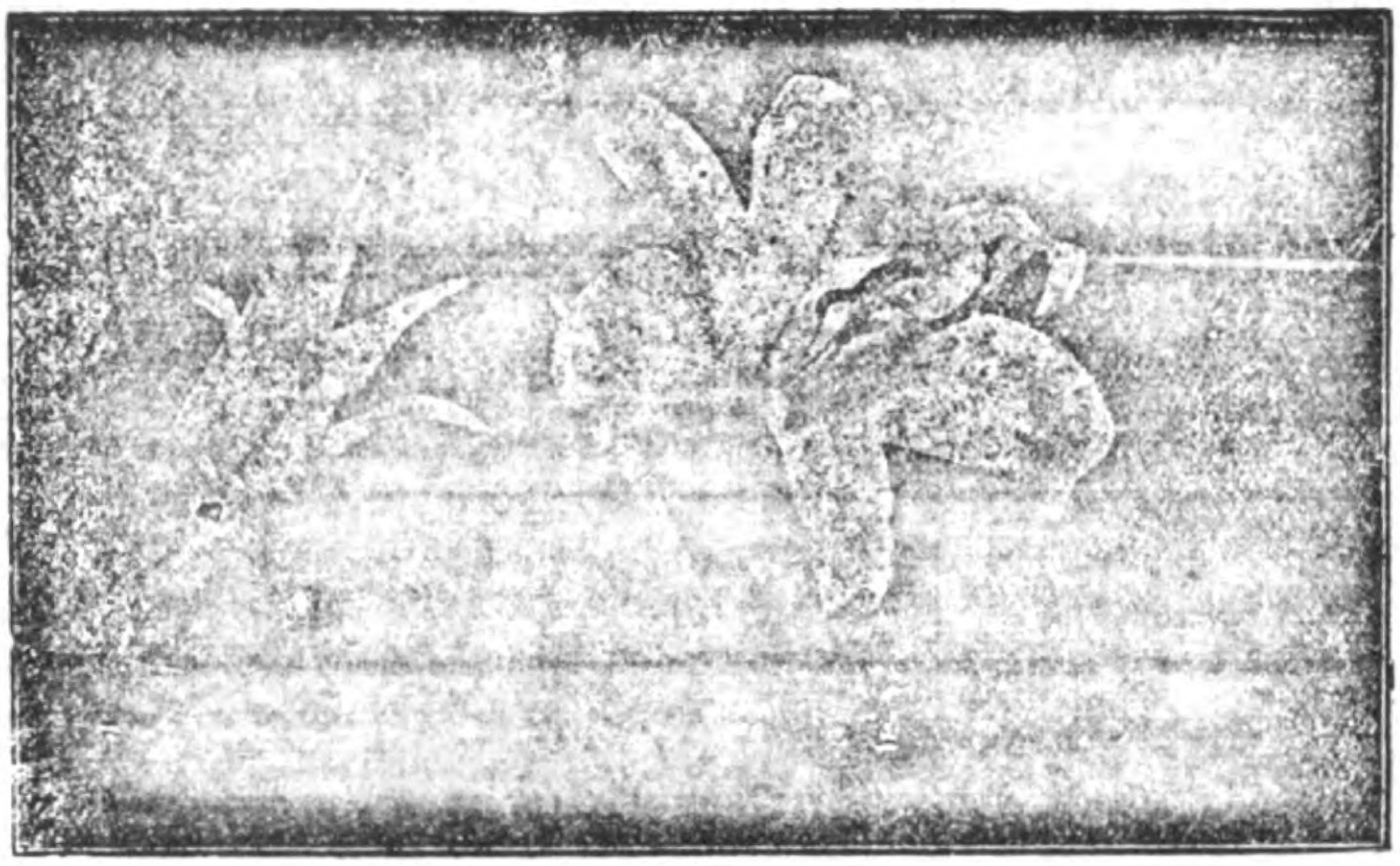
□教育費整理の暴……廓清會長　島田三郎
□軍備を全廢せよ……同副會長　安部磯雄
□劍を代へて鋤に……救世軍大佐　山室軍平
□統計より觀た風教狀態……木藤冷劍
□神社は宗教か？……廓清會理事　高島米峰
□緊急なる社會政策……法學博士　山脇玄
□國際平和の基礎……同志社大學學長　海老名彈正
□最後の審判……一條忠衛
□墨國の婦人運動……白萩子
□吉原病院日記……前吉原病院看護婦　田口和子
□編輯之後……伊藤江南

東京　廓清會本部　發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清
THE PURITY
第十一卷第十一號
大正十年十一月



教育費整理の暴政

廓清會長 島田三郎

□無定見無理想の政治

目下我社會に突發的事件として現れたるは、義務教育費減殺問題である。而も是が地方教育費整理の假面を被りて世上に現はれたるは、恰も惡鬼が美女の假面を被りて白晝に現れたるが如く奇怪至極と言はねばならぬ。抑も整理とは名の示すが如く事物の亂雜を調整するの意であつて、節約とは即ち無用の費目を削減するの意味である、節約には必要なものを削減するの意は毫も含まつて居ない、然るに今日問題と爲つて居る地方教育費整理案を見るに、實に地方教育費千五百萬圓を減殺せんとの目的で其調査を進捗せしめつゝあるのである。即ち名を整理に藉りて多々益々必要なる教育費に對して削減の斧を振はんとするものである。

歐洲大戰最中に於ても關係列國は戰後如何に國力を恢復すべきやに就き、相當研究も重ね考慮を拂つて、危急存亡の秋に當りても、各國とも、其根本とも云ふべき國民教育の向上に關しては注意を怠らなかつた。是は世界共通の現象であつた。

我日本は大戰に參加したとは言ふものゝ、僅か陸海軍の一部を動かしたに過ぎない、却て世界的經濟界の變象に對して戰爭成金ともなつたのである、若し我日本に理想あり主義ある政治家が局に當つて居つたならば、戰後直に新文明國の建設的事業に向つて着々實行を進めた事であらうと思ふが、不幸にして盲目的にして無定見なる政治家が政機を逆轉したる結果、經濟界は大反動を呈し、國民は其逆潮の間に浮沈の苦惱を受け、思想界も亦

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

亂麻の狀態を呈して居る、是は無定見無方針の政治家が國家に被らしめたる一大禍害である。彼の教育費減殺てふ妄動も亦實に此無定見無方針なる施政の一部分である。

□戰後經營は教育が第一義

戰後の經營は特に人物養成が必要である、社會整理の爲めにも教育の進步を必要とする、彼の勞働爭議解決平和促進、國力膨脹等の諸問題に就ても實に其根底は教育の力に待たねばならぬ、教育の上進を圖るに非ざれば國家社會の向上と發達は期し難いのである、勞働爭議解決の鍵鑰は實に勞働者の社會的理解である。若し勞働者にして社會的理解の用意と準備を缺けば規律は紊れ責任は顧みられず放逸無節制に流れるの恐れがある。是れては資本と調和して產業の促進を圖る譯には行かない、故に此目前の社會改革に關しても大切なるは勞働者中の人物養成即ち勞働者の教育である。平和的國力の發展は實に國民に國際的訓練を與ふるの必要がある。例へば外國に移民するに當つても外國語の初步位を心得て行くに於ては、假令風俗習慣を異にする異國民族の思想行動とも自然と調和されて、圓滿なる移民の發達を爲し得る事と思ふ。是等は悉く國民教育の力に待たねばならない。尚普通選擧の促進であるが、自分は普選の實際的訓練にも教育の向上と並行せしむるの必要を信じて居るものである。斯く各方面より觀察するも、教育の向上は國家が文明生活を爲す爲には必要缺くべからざるものである。

海外の大勢を觀るに、世界列國は歐洲大戰の慘禍に懲りて實際上より又思想上より過多無用の軍備の競爭を止めて、國民の教育を進め、其生活を向上せしめんとの機運が生れて來た、夫の「力是れ正義」と云ふが如き舊思想は獨逸の敗績露西亞の崩壞と共に其勢力地を拂ひ、正義是れ力なりとの新思想が擡頭して來た、是れ千載一遇の好機會である。且不十分ながら國際聯盟は成立し、米國は軍備制限を主題とし列國會議を開かんと提言して來た、吾吾は此機を捉へて國民の生活と思想を向上せしめなくてはならぬ。今日まで求めて得られなかつた文化的政策を大に行はしめねばならぬのである。然るに何ぞや現政府は世界思潮に逆行してまでも、國民教育の低下を策せんとの調査を進むるとは言語道斷である。

□整理の餘地は他に多々あり

是迄さへも教育界には費用不足勝て、從つて正教員及び其準備教育の候補者を得る事も實に容易てなく、已むを得ず准教員及び代用教員を補充して一時を糊塗して居る狀態ではないか。而も其數が三四萬に超ゆると稱されて居る。斯くの如く不體裁極まる地方教育界に更に壓迫を加へて、教育費整理の名に於て教育費減殺を行はんとして居る、是れ明かに現代政治の不誠實を暴露したものである。

整理とは亂調子を整へるの謂ひであるが、政府は整理に藉口して我教育を破壞せんと企てゝ居る、眞意整理に心あらば先以て一般行政費の整理は必要ではあらうが、政府は種々の情實に依つて調査會とか、某々院とか、某々局とか、某々委員會とかを濫設してゐるてはないか、役人の剩員は著名の事

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

實ではないか。

□陸軍の態度と陸軍の制限

更に軍閥に至つては認容し難いものがある。今日の陸軍は實に舊露の崩壞した今日では、二十九萬の常備軍は巡査の長劍と稱してもよい、海軍の制限は現に華盛頓會議に整理の楔を打込まんとして居る。若し政府當局が整理に忠實ならば先づ陸軍より大整理を斷行すべき筈であるのに、之に對し我國論は甚だ生温い感がある。又外部の刺戟が無い間は文官の側から軍人側に對してグウの音も出さないとは何たる無氣力ぞや。斯の軍閥の頭領である上原參謀總長の華府會議に對する車中談として新聞に傳ふる所によるに『自分は海牙の平和會議に列席した事があつたが遂に何物をも決定せず結局會議は有耶無耶に終つた今回の華府會議も同一の結果になりはしないか』と語られた樣であるが、海牙の第一會議は今より足かけ二十二年前の事である、世界が此二十年の間に如何に進歩したか、更に大戰を經て別世界の觀ある程の變化を來したかを知らないのであらうか。

今若し軍事費に一指を染めたならば、教育に費す國帑は大學高等學校より以下普通教育に至る費用迄優に現在の二倍又は三倍とするは易々たる事である、現在我日本が教育に費す資金は文部省及地方補助金を合せたる總額僅に五千萬圓を超えない、之を陸軍の軍事費七億五千萬圓と比較せば、其不當さ加減は今更乍ら驚かされるのである。然るに教員の饑饉國とも云ふべき我地方教育界に對し、更に教育費の減殺を企てんとするが如きは言語同斷の處置と云はねばならぬ。之をして歐米諸國に在らしめば國論非常の勢を以て爆發するであらう。然るに我教育界は僅に數府縣に於て反對の烽火を揭げたに過ぎない、是は一般に教育界の萎靡して居る反證である。我教育界が斯く萎靡し無氣力であるのは我歷代の內閣が文教に重きを置かなかつた罪科であり其責任である。

	義務教育年限	義務教育費總額（千圓）	義務教育費國庫支出額（千圓）	同百分比	軍事費の國費に對する百分比	年度
日本	六ケ年	一九二、〇三〇	一三、〇〇〇	六、七八	四八、九	大正九年
英國	八ケ年外に補習教育四ケ年	四二一、七一〇	三四二、〇二七	八一、〇一	二一、五	一九一九—一九二〇年
佛國	八ケ年外に補習教育六ケ年	一四七、二〇〇（一九一七年）	九〇、四〇〇（一九一三年）	六一、六八	三〇、七	一九一三及一九一七年
米國	八ケ年乃至十ケ年	一、五〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	三〇、〇〇	一六、〇	一九一八—一九一九年
獨逸	八ケ年外に補習教育四ケ年	三三四、九二八	一〇六、九二〇	三一、九三	三七、〇	一九一一—一九一二年
露國	十ケ年外に豫備教育四ケ年	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇	一六、九	一九一九—一九二〇年

□五大强國と云へど白耳義和蘭に劣る

今日の政治家が口を開けば五大國の一なりと云ふが、是は張子式の國力を示すもので決して內部に充實して外部に發揚し五大國の一に向上したのではない、其人口七百五十萬其國土の面積は約九州大の白耳義を見よ、僅に常備軍四萬國民軍二十萬を有するに過ぎないが、獨逸百萬の不法の軍勢に對し敢然其條約破壞に抗言して起つたてはないか、元より勝敗を

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

眼中に置いたのではなく、唯正義の觀念より起つて聯合軍の勝勢を決定する先鋒たるに成功した。其最大原因は國民精神教育の賜である。又和蘭に就て見よ、獨逸が慘敗し其結果皇帝は退位し和蘭領内に蒙塵した時にも、憤激の頂點に達して居た英佛國人は其引渡しを要求せんとしたが、小國たりとも正義の前には英佛戰勝の威に屈服せず之を拒んで一歩も讓らなかつた。其態度は實に畏敬すべきものである。是等小國と雖も國内に教育を普及せしめた結果、斯くの如く正義信義に依りて動く事が出來得るのである、華盛頓勞働會議に於て日本の勞働時間制に强烈の詰問的質問を試み、我代表議員が受け太刀となつて苦戰したが、此質問者は白和兩國代表議員てあつた。日本が時勢の變化を顧みず徒らに陸海軍に偏して國力を此一方に傾注して、教育を輕んじ頭腦の貧弱な腕節のみ發達した危險極まる國家を形成するのは、却つて世界各國が日本を誤解するの恐れがある。是實に由々敷損失である。此際日本對内的にも對外的にも教育費を增加して、初等教育のみならず廣く國民の教育に格段の力を盡すべきである。然るに時代の要求を解せず、事理の當然を辨ぜざる政治家に國家を託した結果、斯くは教育費整理など〻白晝臆面なく議せらる〻は遺憾至極である。

英國　では千九百十八年の議會で文相フイツシヤー氏の編成した、有名な教育法案を通過し公教育の國家的制度を確立した、即ち從來六歲から十四歲に至る八箇年の公教育を五歲から十四歲までの義務教育とし、更に十四歲より十八歲までを補習教育として、每週八時間の義務教育を加へた、而して義務教育期間中の少年保護に就ては、嚴重な制度を設けてある、即ち十二歲未滿の兒童は決して賃銀勞働に從事せしめざること十二歲以上と雖も十四歲以下の男子十六歲以下の女子は、授業終了前又は午後八時以後は之を雇用することを得ず、又補習義務教育期間に於ても、始業前二時間の休息と土曜の午後と日曜全日は勞働及學課より解放して精神的體育的の目的に充つべきことを、法令を以て規定したのである。

佛國　に於ては從來六歲から十三歲まで七箇年の義務教育であつたのを、十四歲まで八箇年に延長し、更に四歲から六歲までを幼兒教として、十四歲以上男子は廿歲女子は十八歲まで補習教育として義務教育中に加へたのである。

米國　に於ては戰爭の當初までは八箇年の義務教育を施行せぬ處が四十六州中十州あつたが其十州も今日では全部八箇年に延長し殊にペンシルヴアニヤ州の如きは更に進んで六歲から十六歲迄の十箇年を義務教育としてる、我國では全國の教育費と市町村及國庫の負擔額を加へて一億九千百三萬圓（九年度現計）である而もそれが多いと云つて節約案などが飛出して居るが米國では紐育一州だけで本年度の豫算は三億萬圓を初等教育費に投じて居る。

獨逸　に於ては夙に八箇年義務教育の先驅をなしてゐたことは洽く人の知る如くであるが更に敗戰後の難局を引受た革命内閣では千九百十九年に四箇年の補習教育を義務教育中に加へて居る、江木老の如きは頻りに獨逸通ぃ振廻すが廿年前の獨逸許りでなく最近の獨逸をもチト見倣らつたらよからう、更に又

露國　に至つては文相ルナチヤルスキー氏の所謂子寶國有論に基き最も徹底した教育の社會化を實行して居る、即ち四歲から十七歲に至る總ての少年を國家の保護監督の下に置き四歲から八歲迄は幼稚園に八歲から十七歲までは統一勞働學校にて小中學校の課程を授けて居る、而してその經費は總て國庫負擔たる事は言ふまでもない。

玆に斷つて置かねばならぬ事は歐米に於ける義務教育は我國の如き名ばかりのものでなく授業料を取らぬばかりでなく學用品の一切を支給し又食糧までも供して居る處もあるのである。

軍備を全廢すべし

廓清會副會長　安部磯雄

■軍備費は莫大の冗費なり

今度米國のワシントンで開催される太平洋會議に於て中心となるべき問題は、やはり軍備の縮少といふ點にあるやうに思ふ。私は左に極く大體ではあるが、何故に軍備の縮少といふことが斯くも世界的の問題となつて來たか、また軍備を縮少することによつて果して我々はどれだけの利益を受けることが出來るかといふ上に就いて一言申述べて見たいと思ふ。

もと／＼軍備の縮少といふことは、今回の世界大戰以前にも、屢々眞面目に論議されてゐた問題であつて、殊に前の露西亞皇帝などは、自らその發起者となつて、萬國平和會議といふものを起し、度々會議を開いたことがある。そしてそのときに既に人々の頭には、軍備の縮少の必要であることが考へられてゐたのである。

けれども一方にさうした會議が開かれてゐたにも拘はらず各國の軍備は縮少されるどころか、却て益々膨脹の度を加へてゐたのである、たとひ或る國では一時軍備の縮少をやつて見ても、他の優勢なる軍備を有する國に對する恐怖心から、またそれに劣らぬくらゐの軍備を設けるといつた風で、他の國に對する恐怖心が競爭となり、競爭が更に一層激しい競爭を生んで、各國は際限もなく軍備の擴張に沒頭して餘念がないといふ狀態に陷つてゐた。ために世界各國の國民は堪へがたい大きな苦痛を嘗めさせられてゐたのであるが、端なくも起つた今度の世界大戰の結果、初めて身にしみて、戰爭の如何に恐るべきものであり、且つ不經濟なものであるかといふことを、各國ともに痛切に感じせしめられるに至つた。

此處に私が改めて申すまでもなく、一國の軍備の施設には多くの金が費される、世界人類の幸福の點から言へば、このやうなことのために、惜し氣もなく多くの金を費してしまふことは誠に殘念なことゝ言はなければならぬ。同じ金を費すと言つても、普通一般の贅澤とか何とかいふことのために費されるのであれば、その及ぼす結果といふものは、左まで大した問題とならずに濟むかも知れないが、これが戰爭のために費されるとなると、啻に莫大の金が煙となつてしまふばかりでなく、その結果に於て貴重なる人間の生命財產をまでなくしてしまふといふ恐ろしいことになる。

■此儘では世界各國の共倒れ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

今度の戰爭のために、各國は如何に多くの金を費したかと考へて見ると、大體に於て言へば、先づ佛蘭西は九百二十億圓を費してゐる。これは佛蘭西の國の全財産の約半分に相當してゐる。全財産とは、土地や建物や、鐵道や工場、その他金銀を産する鑛山など、それら全部を集めて見積つた一國の財産を指して言ふのである。次に英國はどうかと言ふと佛蘭西に較べては稍少いが、それでも八百億圓、英國の全財産の三分の一に當つてゐる。これは一二の例に過ぎないが、その他獨逸、米國、墺太利、伊太利、露西亞諸國の費した金を合計して見ると、少くとも全體で六千億圓の驚くべき巨額に達してゐるのである。戰爭のために、斯くも多くの金の費されたことは、以前には例のなかつたこととて、如何にその結果の慘憺たるかを推知するに充分である。

以上のやうに、各國ともに今度の戰爭によつて非常な痛手を蒙つてゐるのであるから、戰爭の終つた今日では最早や再び斯のやうな災を繰返すとはしないであらうと思つてゐると、どうであらう、やはり懲りもしないで、各國ともに相變らず軍備の擴張に忙しい始末である。殊に海軍を有してゐる國々は更に大なる勢で海軍の競爭を始めてゐる。昨年から今年へかけての一年間に於て費した世界五大國の海軍費を見ると、米國は十億圓、英國は八億四千六百萬圓、日本は五億圓、佛國は三億五千萬圓、伊太利は一億五千萬圓となつてゐる。斯のやうな有樣なのだから、流石の英國の如きも、最早やこれ以上海軍のために金を費すことは出來ないといふので、目下のところでは、英國よりも米國の方が遙かに海軍の力を增すことに努めつゝある、少くも米國は英國の海軍力を早く凌駕したいと望んでゐるやうである。けれどもその米國に於ては今や戰爭の後片付のために國民は非常な多額の租稅に惱まされてゐる有樣である。最早これ以上の負擔には堪へられぬといふくらゐの程度にまで、苦しい思ひをさせられてゐる。それで自然と國內の心ある人々の間に海軍の際限ない擴張を制限させようとの聲が叫ばれて來るやうになつた、英國も日本もまたその通りの狀態にあるのである。

過去一ヶ年間に費された米國の海軍費の十億圓に比して、日本の五億圓は約その二分の一にしか過ぎないが、しかし貧乏國の日本としては、この五億圓の金高は實に乏しい財布の底を絞つて出した苦しい金なので、これは實に馬鹿氣たことに相違ない。一日も早くお互に詰らない競爭は止めなければならぬ。一度皆なが寄り合つてお互が共倒れにならないやうに今のうちに何とか方法を講じなければならぬと心ある人々は斯う考へて來るやうになつた。そしてそれが今度の太平洋會議となつて現はれて來た。若し米國がこの會議を主唱しなかつたなら、或ひは英國がやつてゐたかも知れぬ。兎に角早くこの問題を解決してしまはねばならぬ。さもなければやがて全世界が身代限りをして、文明が滅びてしまふより外はない。

つまり人類が自殺をしてしまふより外はなくなる。これが今度の會議の開かれるに至つた所以である。私はこの會議が世界人類の幸福のために、必ず悅ばしい結果を齎してくれるであらうことを深く期待してゐるものである。

■戰爭に勝つても利益は無い

しかし世の中にはまだ〱戰爭について誤つた考へを抱いてゐるものが多いやうである。私共は封建時代を隔たることが未だ遠くないためか、兎角戰爭といふものに對して一種の趣味を感じてゐるやうに見える、戰爭は、恰も愉快な競技運動や勝負事のやうに見てゐる。中には『戰爭に勝てば莫大な利益が得られる。相手の國からうんと金を取つて、思ふ儘に國を富ますことが出來る。また領土も擴げることが出來る…』などと平氣で言つてゐるものもある、何か事があつたら戰爭をして、そして相手を打負して威張りたがつてゐる。殊に日本の軍人などは、『どうしても我國と米國との間には戰爭はまぬかれぬことだから、此際米國と戰爭をした方がよい…』などと言つてゐるものもあるやうである。

しかし戰爭によつて些かも利益を得られるものでないといふことは今度の世界大戰の結果によつて明かに證明された事實である。即ち戰爭に勝つた國も負けた國と同様に同じ苦しみを嘗めてゐる。勝つた佛蘭西や英國などが、却て負けた獨逸よりも餘計に經濟上に於て大きな苦痛を嘗めさせられてゐる。これは一見甚だ矛盾してゐる言葉のやうに思はれるが、その譯を簡單に説明して見ようと思ふ。

此處に一つの面白い例がある。それは今から丁度五十年ほど前に、獨逸と佛蘭西とが戰爭をしたことがあつた。その結果獨逸が勝利を得、佛蘭西から五十億フランの償金を取り、そのうへアルサス、ローレンの二州を新領土に加へた、この戰爭に於て獨逸は望み通りに金も土地も取ることが出來た、けれども今日のやうに經濟上の關係といふものが國際的になつてゐて、始終お互に貿易をし合つてゐるやうな時代では、お隣りの國から五十億フランなどといふ多額の償金を取つたからとて、決して利益にも何にもならない。それは何故であるか、大體に言へば、今不意に五十億フランといふやうな大金が獨逸の國内へ入つて來たがために、獨逸の物價は遽かに騰貴する。獨逸の國内の金がそれだけ多くなると、金の價が下つて、品物の價が高まり、從つて物價が素晴しく高くなる（日本の戰爭中に於ける物價の騰貴もつまり斯うした理由からなのである。）で獨逸が五十億フランの償金を取つたはいゝが、そのために、國内の物價は二倍三倍と騰貴した。それと反對に、負けた佛蘭西の方はどうであつたかと見るに、五十億フランといふ大金を一時に獨逸に取られたがために、國内にはそれだけの金が減つたことになる、金は減つたといふもの丶品物は決してそれに伴うて減りはしないのであるから、今まで一圓した品物でも五十錢ぐらゐに安くでもしなければ買手がない、つまり品物は充分にあつても、それを買はうにも金が足りないからである。そこで拔目のない佛蘭西の商人はその品物を物價騰貴で苦んでゐる獨逸の國へ持つて行つて賣つた。自分の國では一圓する品物が、獨逸へ持つて行けば少くとも二圓乃至三圓には賣ることが出來る。それでどしどし獨逸の國内へ品物を持込んで莫大な利益を占めることが出來た。そして戰爭に負けて取られた五十億フランの金はその後十年とは經たないうちに、また元の佛蘭西へ見事に取返さ

れてゐたのである。この事實を見ても、戰爭に勝つて金を取れば國が富むなどと考へることは誠に大きな誤りであることが判ることゝ思ふ。

■戰勝國民は經濟的に不幸

日本も今度の戰爭で約四十億圓の金を儲けたために、却て國内の物價は外國に比べて非常に高いものになつた。そのために折角品物はありながらそれを外國へ賣つて利益を得ることが出來なくなり、それに反して外國からは安い品物がどん〳〵日本へ入つて來る、勢ひ儲けた金もまた元のやうに出て行つてしまい。今暫くすれば日本はまた元の默阿彌になつてしまふであらう。

これを米國に就いていふと、米國も戰爭中に儲けた金高は約二百億圓近いものであつたが、しかしこれを直ちに國内へ持込んで來ることは危險であると考へ、その金を英國、佛蘭西、伊太利の諸國へ貸付けたのである。けれどもその結果はやはり同樣であつた。流石の米國もこの頃では大變の不景氣で、それに加へて大事なお華客先である歐洲諸國が、只今のやうな有樣であるから、國内の各工場は日日に沈衰し、現在は失業者が五百萬人もあるといふ慘さである。

私が在米中、或る米國の雜誌が『……こんな不景氣な狀態が尚ほ此處一年も續いたならば、米國は戰爭で儲けた二百億圓以上の損害を被らねばならぬやうになるかも知れない。結局貸付けてある二百億圓の金は各國に遣つてしまつた方が遙かに米國のために利益であるかも知れない』と言つてゐたことを記憶してゐる。これらを見ても、戰爭といふものは勝つと負けるとに拘らず、如何に無意義なものであるかといふことがよく判るのであつて、戰爭によつて金を儲けようなどと考へることは大なる量見違ひなのである。

それでは金は取らなくても、土地を取ることが出來ればどうか、それによつて何か利益を得ることは出來ないものであらうか、と考へて見ると、これも結局は何等の利益にもならないのである。たとへば日本が日清戰爭に勝つて臺灣を取りまたは朝鮮を併合したが、そのために日本は實際のところどれほどの利益を得てゐるであらうか。臺灣を取つてからも、今尚ほ年々多額の金を同島のために注ぎ込んでゐる。朝鮮といへども同樣で、取り立てゝいふほどの利益は擧げてゐないのである。唯だ土地を取ることによつて、國が大きくなつたといふ、我々の名譽心を滿足せしめることが出來るかも知れぬ。さういふ人達は言ふでせう『日本は遂に五大强國の一つになつた』と。けれどもさうした名譽心を滿足させようがために戰爭などをされたのでは、人類の不幸これより大なるはない。それは恰も何等經驗のないものが相場をやるやうなものである。それよりも我々は人間としての幸福な生活を送るために出來るだけ戰爭を未然に防止することに努めなければならない。殊に婦人の立場から言つて、世に戰爭ほど悲慘なものはない。不幸にして戰爭によつて自分の良人や子供を失つたとすれば、人生の幸福は根柢から破壞される。

■軍備の犧牲となつた悲慘な國民

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私は日本人の生活は實に慘なものであると常に考へてゐる。苟も文明國をもつて自任する以上、現在の日本人の生活は餘りにも悲慘である。田舍は田舍で悲慘であり、都會は都會で悲慘である。たとへば同じ都會生活をしてゐても日本のやうな汚ない都會は外國では到底見ることは出來ぬ。日本には道路一つさへ完全なものがないではないか。私は東京の道路を歩いてゐて何時もそのことを考へる。これを精神的方面に移して考へて見ても、日本には現在學問をしようにも、人を容れる學校がない始末である。よし幸運にも選ばれて、自分の希望通りの學校へ入ることが出來たにしてもそこに敎ふる敎師は、薄給に甘んじて學問を切賣してゐる老朽なのである。さういふ敎師によつて敎へられなければならぬ日本の學生は實に不幸と言はなければならぬ。敎師は待遇が貧しいため、一流の人は去つて實業方面へ走る有樣である。いゝ敎師を求むるためにはいゝ待遇をしなければならない。人を容るる建物がなく、加ふるにいゝ敎師のない日本に、どうして眞實の敎育があると言ひ得られやう。それは一體何に原因してゐるのであらうか、言ふまでもなく餘りに多くの金を無用の軍備に費し過ぎるがために敎育費に當てるべき金がないからである。

日本の社會は、丁度屋根と壁だけが不相應に立派に出來てゐる一軒の家のやうなもので、一度その家の内部に這入つて見ると、部屋は一向整つてはゐず、裝飾なども無く、唯だ人間が疊の上にごろ〳〵と横はつてゐて、客を容れる應接間さへ出來てゐないといつた不完全さである。これは決して立派な家と言ふことは出來ぬ。考へて見るまでもなく、人間の幸福といふものは決して屋根や壁にあるのではなく、内部の室内の裝飾や設備にあるのである。

前にも申したやうに、日本は過去一ヶ年間に五億圓の金を海軍のために費してゐる。今この五億圓の金を他の方面に有效に使用するときは我々の生活は驚くべき變化をもつて臨んで來るのである。たとへば一つの學校に一千萬圓の費用をかけますと相當の專門學校が出來るが、若し五億圓の金をこの方へ使用するとすれば、一年に五十の專門學校が出來ることになる。また大學であると、一校に五千萬圓も當てれば、一年に十の大學、二年に廿の大學が出來ることになる。大學が廿も出來るやうになれば、現在の日本では先づ不足を感ずるやうなことはないと思ふ。

また現在では小學校の費用は、地方々々で負擔してゐるが若し五億圓の金があれば、小學校から大學までの敎師の給料と、その他一切の經常費を國庫支辨にして立派にやつてゆけるのである。卽ち現在の小學敎師十六萬人の平均月給を百圓として、中學校高等女學校敎師九千六百人の平均月給を百五十圓とし、專門學校敎師約二千人の平均月給を二百圓とし、大學敎師約千六百人の平均月給を三百圓として、これだけ全部を國庫支辨にしても、一ヶ年間に二億三千萬圓くらゐで充分に足りる。斯ういふ風にして考へて見ると、五億圓といふ金は實に恐ろしい樣であることが判らう。しかもその巨額の金が、無意義な、人間の幸福とは何の關係もないことのために年々惜し氣もなく費されてゐるのである。

■軍備を廢して眞の幸福が有る

これをもつと我々の生活と密接な方面から考へて見やう。この頃は何處も彼處も家屋の不足を告げてゐて、從つて家賃も隨分と高いのである。しかもその家屋たるや實にお粗末至極なもので、殊に下層階級の住んでゐる家屋に至つては、その度が最も甚しく、單に衞生上から言つても無論のこと、道德上から言つても不都合なものばかりである。斯うした場合に於て、國家が若し安價で良い家屋を建てると想像して見る五億圓の金で一戶二千圓の家屋を建てるとすると、一年に廿五萬戶の家屋が建てられることになる。これを三府四十三縣北海道、臺灣、朝鮮全部合せて四十九縣に割當てると、一縣に就いて一年間に五千餘戶の家屋が建てられることになる。古い家や住むに堪へられないやうな不潔な家などは强請的に取毀ち、それに代へるに毎年新しい家を建てゝゆくことにすれば、國民の生活はどれだけ幸福を增して來るか知れない。日本の道路もゆく〳〵は立派なものに改造されねばならんが今若し幅三間半の道路を、堅牢で淸潔なアスファルト若しくはコンクリートで敷設することにすると、一哩に就いて約八萬圓の經費を要する。それで若し五億圓の金をそのために使用すれば、優に六千三百三十哩の道路を造ることが出來る。東京市に千哩を當て、大阪、京都、神戶、名古屋、橫濱の五大都市に二千哩を當てると、日本の都市の道路も忽ちにして面目を一新する。殘りの三千餘哩を下關と靑森との間、及びその他の部分に當てる。斯くすれば僅か一年間の海軍費で、日本の道路を悉く立派なものに造り變へることが出來る。

■婦人は軍備廢止を要求せよ

斯のやうなことを考へて來ると、今更ながら我々の生活を不幸ならしめてゐるその最大の原因は無意義な軍備の擴張に存してゐることを痛感せしめられるのである。若し軍備を廢することが出來れば、その金で此處二三十年の間に、日本人の生活はどれだけ向上せしめられ、日本人の生活がどれだけ幸福に導かれるか計り知られないのである。それを思へば軍備縮少どころではなく、むしろ一思ひに撤廢されなければならないのである。

新聞紙の報ずるところによると去る七月十日、ウインに於て開かれた第三回國際婦人聯盟大會の席上に於て同會の會長ジエーン・アダムス氏は「顧れば過ぎし大戰は、億萬の富と生命とを失つてそして何處に何ものを贏ち得たであらうか。要するに戰爭といふものは、人類にとつて最も不自然な行動であるといふより外はない。しかも我等人類はこの不自然極まる戰爭といふものを二十世紀の間保存して來たのである。今こそこれを捨つべきときである。」と叫んでゐた。

今度の會議に於て、この問題が果してうまく解決されるか否かといふことに就いては勿論唯今のところでは何とも申されぬが、少くとも我々はこれを國民の輿論として持たなければならないと思ふ。婦人も深くこの問題に就いて考ふるところがあり、戰爭に對する誤れる思想を取除くことが今日の場合として最も必要なことであると私は考へるのである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

劍を打ちかへて鋤となせ

救世軍大佐　山室軍平

（上）

預言者イザヤは理想の世界を語りて、「エホバは諸ろの國の間を鞫き、多くの民を攻め給はん。斯くて彼等は其の劍をうちかへて鋤となし、其の鎗をうちかへて鎌となし、國は國に對ひて劍を擧げず戰鬪のことを再び學ばざるべし」といふて居る。理想の世界には軍備が要らない隨つて戰爭などいふものは、全くなくなる筈のものである。

昔の人は「春秋に義戰なし」といふた。義戰のないのは、何も支那の昔の春秋戰國時代に限つたことでない。戰爭は何れも義戰の名義で行はれて、其の實は何人かの慾から起つて居る場合が多い。「汝等の中の戰爭は何處よりか、分爭は何處よりか、汝等の肢體の内に戰ふ慾より來るにあらずや。汝等貪れども得ず、殺すことをなし、妬むことをすれども得ること能はず、汝等は爭ひ、又戰す」と、ヤコブが言ふたのは本統の事である。

耶蘇基督は「平和の君」と呼ばれ給ふ。彼は敎へられた「汝の劍をもとに收めよ凡て劍を取る者は劍にて亡ぶるなり」と、どうか私共は一時も早く軍備の必要がなく、戰爭の悲慘を經驗しない時代の來るやうにと、心から祈るものである。

（下）

しかし乍ら、どうしたら然ういふ、理想の世界が打ち建てられるであらうか。如何にしたら、然ういふ平和の代が來るてあらうか、それには政治上、外交上、經濟上、社會上、種々解決せられねばならぬ問題もあることゝ思へど、それにしても、一番大事なのは、人々が愛を以て交はる樣になることである。前のヤコブの言にもある如く、戰爭は概して政治家だか、軍人だか、資本家だか、若くは國民だかの、貪りから起ることが多いものてある。それ故戰爭を世の中から絶やすには、どうしても、もつと世の中に愛が行はるゝやうにならねばならぬ。

然らば此の人類お互の間の愛はどうしたら增進することが出來るかといふことに付、或人の言に、「四海兄弟など、口にのみいふて、其の實行が擧らないわけは、彼等が共同の父を認めぬからだ」といふてある。それ故人々が謙遜つて天の父なる神を認め、其の御旨を爲さんことを心がける樣にさへなれば、四海兄弟の實は自ら擧るてあらう。それ迄は口でのみ、萬民同胞を唱へても、其の心では互に爭ひ妬みの絶間がない。基督が「誰にても神の御意を行ふ者は、是れ我が兄弟、我が姉妹、我が母なり」と、仰せられたのも、其の意味である。

今は凡ての人民擧つて小さな身勝手をやめ、悔改めて天の父に立歸るべき時てある、理想の世界を來らする第一步は、諸君御銘々の救にあるのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

風教上より見たる公私娼

木藤冷劍

廓清會も愈滿拾週年を迎へ、今秋大集會をなすとの事會員として誠に欣喜雀躍に堪えぬ次第である。今予の古きスクラップブックを開いて見ると、古い新聞の拔萃に廓清會の發會式と題して其當時の模樣が記されてある。江原素六翁が座長となられ今は故人となられた日本力行會の島貫兵太夫氏が司會せられて、四十四年の七月八日午後六時半から青年會館で開催され、大隈侯の祝辭島田會長、安部副會長、山室救世軍大佐、矢島楫子女史をはじめ山田前救世軍參軍や、礦毒事件で有名なる明治の義人と謠はれた田中正造翁などが出席せられて、快辯を揮はれ、階上階下滿員にして入場し得ざりし者數多あり、卽座に會員申込者二百名を獲たといふやうな事が書いてある。夫れからもう一昔となつた。此間難波新地の廢止の成功や飛田の遊廓設置反對運動があつたり、川崎の暴行事件があつたりして曰く何、曰く何、と社會廓淸のために活動して來た跡を見る事が出來るのである。斯くして大正八年十一月に會則の改定を見たのであつた、此間私は何も働きもしないで充分な會員としての責任を盡さなかつた事を耻づる次第である。

拾年といふ思ひ出でに、何か風教上に參考になるやうなものをといろ〳〵と考へて研究もし調査もしたりして、數號に亘つて、娼婦と都市の問題を述べたるが、拾週年にちなんで過般來陸軍省醫務局に就て、何か參考資料をと御願して材料を得たる外、警察部にてもいろ〳〵な材料を得る機會が得られたのであつた。

順序として現在の我國の花柳病の情態を知るべく十二年間の綜合統計を示す事にする。卽ち第一表の如くである。

各年別徵兵檢查人員及花柳病數調

自明治四拾二年 至大正九年（陸軍省醫務局調）

年別	檢查總人員	花柳病患者數 梅毒	花柳病患者數 軟下疳（ヨコネ）	花柳病患者數 痲疾	計	檢査人員千ニ對シ
明治四十二年	四五四、九九八	二、六〇九	二、〇二六	六、〇五〇	一〇、六八五	二三、四八 人
明治四十三年	四三五、六〇二	二、一三八	二、三二九	七、三二三	一一、七九〇	二七、一〇
明治四十四年	四一二、六五八	一、六五八	一、八七五	六、八六〇	一〇、四二〇	二五、二九
大正元年	四五八、九五五	一、九五八	二、二七九	七、三三〇	一一、五六七	二五、二〇
大正二年	四五三、一五二	二、〇六〇	二、五一九	七、七八四	一二、三六八	二七、二八
大正三年	四七五、七四二	二、三四二	二、一六二	八、一三六	一二、六四〇	二六、五七
大正四年	四八六、七五〇	二、三四一	二、三五三	七、五九三	一二、二八七	二五、二三

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

大正五年	四八八、三三〇	二、一六九	二、一六二	六、九九五	一一、三三五	二三、一九
大正六年	四九七、一六八	二、〇七三	二、六六五	七、六九一	一二、三三八	二四、八〇
大正七年	五一三、七五一	一、九三三	二、三四四	七、二〇七	一一、四三四	二三、三五
大正八年	四九九、三〇四	一、六五七	二、〇九一	七、一八七	一〇、九三五	二三、〇三
大正九年	五三〇、五二六	二、一九六	二、四三四	六、九七五	一一、六〇五	二一、八七

之は明治四十二年より昨年度迄の徴兵壯丁檢查花柳病の數字である、急激に減少はして居ないが兎に角、多少共花柳病の減少して行く事は數字の示す如くて誠に喜はしい事である。

次に、大正九年度の細別徴兵檢查縣別比例を見るに、實は日本地圖を畫いて統計を造る豫定であつたが非常に印刷に手數のかゝる事ゆゑ之を五區分にして、甲乙丙丁戊に別ち、甲は千に對し七人より二十人、乙は千に對し二十人より三十人といふ風に區別してある卽ち左の如くてある。

大正九年 徴兵檢查花柳病數 縣別表

◁檢查人員千ニ對スル比例▷

甲 7—20

青森、岩手、宮城、山形、新潟、栃木、群馬、千葉、埼玉、山梨、長野、靜岡、岐阜、兵庫、福井、岡山、和歌山、大分、宮崎、鹿兒島、

乙 20—30

北海道、福島、茨城、石川、東京、神奈川、愛知、三重、滋賀、京都、奈良、大阪、熊本、島根、鳥取、山口、廣島、香川、德島、愛媛、福岡、佐賀、

丙 30—40

樺太、朝鮮、秋田、富山、高知

丁 40—50

長崎、沖繩、臺灣、

（陸軍省調査に依る）

千分の比を各府縣別五區分にすると、前表の如くてあるが、之を各府縣別詳細に一々病名別を別けると卽ち第三表の如くてある、何れも最近の調査にかゝり數字は陸軍省の調査になり又縣內人口(男子)は國勢調査の結果に據つたものである、詳細の說明は之を省略す。委しくは第三表に就て、御覽を乞ふ。

大正九年度各府縣病別壯丁檢查表

（陸軍省醫務局調 國勢調查統計調）

道府縣	國勢調査結果男子數	壯丁檢査數	花柳病 梅毒	花柳病 橫痃	花柳病 淋疾	計	檢査人員千ニ對シテ比例
北海道	一、二四四、二四五	三三、五二八	一〇二	一〇六	三五八	五六六	二四、〇六
青森	三八一、二八五	六、八四九	一七	一二	四六	七五	一〇、九五
岩手	四二一、六〇四	七、六六九	二三	一七	七五	一一五	一五、〇〇
秋田	四五三、六八二	八、九六五	四〇	四七	一八三	二七〇	三〇、一二
山形	四七八、三二〇	九、六〇九	一九	一〇	七七	一〇六	一一、〇三
宮城	四八五、二九六	九、三五五	三〇	三四	八六	一五〇	一六、〇三
福島	六七三、五一四	一二、八〇七	四六	四二	一九一	二七九	二一、七八
茨城	六六三、〇九八	一二、三三七	四二	五〇	二二九	三二一	二五、三三
栃木	五一四、二五三	一〇、〇七九	六九	一五	一一一	一九五	一九、三五
群馬	五一四、〇九七	一〇、〇四九	五九	一〇	一〇〇	一六九	六、八七
埼玉	六四一、一六四	一二、九三七	二五	四二	一四〇	二〇七	一六、〇〇
千葉	六五六、九三七	一四、〇二四	二〇	五一	一二八	一九九	一四、一九
東京	一、九五三、九六八	二六、〇三三	七一	一八八	三五一	六一〇	二五、一三
神奈川	六八九、七五三	一一、一九三	八二	八〇	一〇六	二六八	二三、九四
新潟	八七六、四九七	一七、二六六	三八	五五	一四〇	二三三	一三、四九

富山	三三五、四七五	七、三七四	四七	三九	一九八	二八四	三八、五二
石川	三六四、三五六	七、三四四	六八	三七	九六	二〇一	二七、三八
福井	二九三、一七〇	六、二一九	三九	一六	一五九	二一四	一八、三八
長野	七五八、六四六	一四、三八七	五七	一九	一五三	二三九	一五、九三
岐阜	五三六、三三三	九、九六三	四二	三三	一一二	一七五	一七、五七
滋賀	三一三、七四二	七、一五九	一〇	六〇	一〇九	一七九	二五、〇〇
山梨	二九〇、八三三	六、四〇八	六	一三	五二	七〇	一〇、九三
静岡	七七三、九七六	一五、六七九	三五	九九	一五七	二九一	一八、五六
愛知	一、〇三三、八三五	一八、六二七	八七	六三	二二七	三七七	二〇、一三
三重	五二五、九三九	一〇、五七六	九七	四〇	一〇九	二四六	二三、二九
京都	六五〇、五八一	一一、三五四	六五	七三	一一二	二四八	二一、八四
兵庫	一、一七五、五四〇	二一、五二〇	七一	一二〇	一六三	三五四	一六、四五
大阪	一、三四四、八三六	一九、〇九二	七〇	二〇九	一七三	四五三	一三、六七
奈良	二八〇、三七一	六、三七四	四〇	四九	九四	一八三	二八、七一
和歌山	三七二、〇五三	七、七七二	一三	四八	七五	一四九	一八、七九
鳥取	二二二、七九九	四、三六四	一五	一八	七八	一二二	二七、一三
島根	三五四、九六一	六、七二九	二六	二〇	一三六	一八二	二七、〇五
岡山	六〇五、三一四	一一、八五六	五一	三五	一二六	二一二	一九、五七
廣島	七七五、〇四四	一五、四〇〇	六三	五五	一九八	三一六	二〇、五二
山口	五二一、〇三五	九、九九一	二八	六三	一四六	二三六	一三、六三
徳島	三三一、七九〇	七、〇三四	三二	二五	一一八	一七四	二四、七四
香川	三三六、五七一	七、一三九	三九	二九	九〇	一五三	二二、一三
愛媛	五一五、三八三	一〇、八二〇	五三	四五	一九八	二九六	二七、三六
高知	三三二、〇七九	六、六六〇	二六	三〇	一五八	二一四	三三、一三
大分	四二二、六九三	八、三七三	一三	三五	一一六	一六三	一九、四七
福岡	一、一一六、四〇四	二〇、〇一七	八二	九八	二六五	四四五	二三、一三
佐賀	三三九、九六一	七、三一一	三三	四〇	九三	一六五	二三、五七
長崎	五八三、三八九	一〇、五〇七	一三三	九〇	二八五	五〇七	四八、二五
熊本	六〇二、三六二	一二、四七七	五六	四一	一二二	三〇九	二四、七七
宮崎	三三六、六〇二	五、九〇二	一九	一七	七七	一一三	一九、一四
鹿兒島	六八二、一九九	三、九四一	四〇	三九	一六五	二四一	一八、六三
沖繩	二九六、七二九	四、八五五	一九	三一	一五一	二〇一	四一、四〇
朝鮮	八、九二三、〇六〇	一、六八五	一〇	一〇	四三	六三	五七、三九
臺灣	一、八九四、一四一	一、〇八二	八	六	三五	四九	四五、二九
樺太	六二、二四一	一、一七四	五	九	二七	四一	二四、九三
關東州	—	一、三五二	七	五	三六	四八	三五、五〇
青島	—	二四九	二	一	一六	一九	七六、三一
支那	—	七八	〇	〇	三	三	三八、四九
中支那	—	八三	一	〇	六	七	八四、三四
計	三八、九二二、四三七	五三〇、五六三	二、一九六	二、四三四	六、九七五	一一、六〇五	二一、八七

右の第三表に就て全國各府縣の情態を知る事が出來る、更に第二表の如く我國に於て、最も花柳病の比較的多きは沖繩、臺灣、長崎等である、順次種々な材料と統計を以て說明する筈なれ共先づ第一に風教上より見て長崎縣の情態を述べん。

陸軍省の調査によれば沖繩は、四一、四〇、の割合臺灣は、四五、二九、の割合なるに長崎縣は四八、二五になつてゐる。長崎縣は九郡二市に別れてゐる、其内北高來、壹岐、上縣の三郡を除くの外何れも公娼の所在がある、藝者があり隨つて、料理店がある、同地の情況に就て一例を擧げんか、最近同地

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

の情態を視察して聞門せる、緒方庸雄氏の調査によれば曰く「私は今から十日程前に長崎縣西彼杵郡松島といふ一小島にある炭礦内の坑夫實況を視察する機を得ました其際土地の駐在巡査と談合の際聴いたのでしたが人口一萬に達するか達しないかといふ小さな島而も其中で何百といふ小戸數のある「釜の浦」といふ浦邊――一漁村――に一軒四五人宛の娼妓を置ける廓が十軒もあると聞いて私共は醜業婦の發展普及に今更ながら驚愕せざるを得ないではありませんか」云々（矯風會機關、婦人新報八月號參照）以て其一般を窺知する事が出來ると思ふ。予は長崎縣警察部調査にかゝる、大正八年、九年、兩年度の同縣に於ける、最も細密なる、貸座敷、飲食店、料理店、樓數、娼妓、藝妓、酌婦、登樓人員、費消金員の郡市別になるもの、第四表を掲ぐ左の如くてある。

長崎縣に於ける貸座敷娼妓登錄削除費消金員藝妓酌婦其他調

（大正九年末現在長崎縣警察部調査ニ據ル）

◇長崎縣總人口百三十萬五千七百四十二名 内男五十八萬三千八百三十九名 内女五十五萬一千九百〇三名◇

（國勢調査ノ結果ニ據ル）

郡市別	年別	貸座敷所在地數	軒數	娼妓數	登錄數	削除數	登樓人員	費消金員	藝妓	酌婦	料理店數	飲食店數
長崎市	八年	五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐世保市	八年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
西彼杵郡	八年	六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
南高來郡	八年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東彼杵郡	八年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北松浦郡	八年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	二	[illegible]	[illegible]	四	七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北高來郡	八年	—	—	—	—	—		—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	—	—	十	—	—		—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
南松浦郡	八年	二	[illegible]	[illegible]	七	四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	三	[illegible]	[illegible]	九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
壹岐郡	八年	—	—	—	—	—		—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	—	—	—	—	—		—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
下縣郡	八年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
上縣郡	八年	—	—	—	—	—		[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	九年	—	—	—	—	—		—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

長崎縣の情況は前項の如くてある然らば花柳病の少き縣及娼妓の少き地方及其地の風教状は如何といふに先づ群馬縣山梨縣の如き地方の方面を調査によりて順次述べんと思ふ。（以下つづく）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

神社は宗教か

廓清會理事　高島米峰

□神社の定義と祭神の定義

そこで神社とは一體何であるかといふに、

神社とは國家又は國民の崇敬する神靈を奉祀する營造物又は一定の區域。

といふのである。營造物だの區域だのとなると誠に早や愛憎氣のないものになる。神社に參詣して『はゝあ之だな一定の區域といふのは』と思ふた日には誠につまらない。

それでは祭神はどんなものかと云ふと、實は分らない。餘りに澤山ある。本居宣長は餘程面白く之を說いてゐる。

加微といふは古典に見えたる天地の神の神達はじめ、其の祀れる社に座す御靈をも申し又人は更にも言はず鳥獸草木の類海山など其の他尋常ならず優れたる德ありて可畏き物を加微といふなり、優れたるとは尊きこと善きことなどの優れたるのみをいふにあらず惡しきもの奇しきものなども世に卓れて可畏きは神といふ。

此の宣長の定義によると、八百萬の神は大抵この中に收まる樣である。

□神社の分類

□神輿と酒と馬鹿踊

ずつと昔、と云つても、我々の學生時代に『神道は祭天の古俗也』と云ふことを唱へて大學教授を罷めさせられた人があつたが、日本の神道や神社や神樣に就て論議するのは、甚だ窮屈で、今日は餘程自由になつた樣であるけれども、尚思ふ存分やれない。ほんとうは「觸らぬ神に祟りなし」で、神樣の事など云はぬ方がいゝのだらう。

それでは何故這麼題を出して見る氣になつたかといふと、先達てから秋の祭りで東京市中わつしよい〳〵、何處へ行つても御神輿を擔いで酒を飲んで、ひよつとこ踊りを眺めてゐる。さういふ處を觀て泌み〴〵感じたこともある。また明治神宮に病氣の平癒を祈りに行く、金が儲かります樣に願をかける。そんな事は無ささうなものだと思ふが、ある。お札が出る。其のお札が何の益に立つか知らぬが、病氣災難除けだとか勝負に勝つ樣にだとか色々なことに用ゐられるさうだ。

斯ういふことを聞くにつけても、我々がつい此間迄長い間崇め親しみ奉つた明治大帝が、神去りました後久しからずして迷信の對象として瀆し奉るのを思ふと、どうしても『神社は宗教か』と云つて見度くなるではないか。

更にこの神を分類して見ると、人間を祭つたものと超人間――人間以上と限らず、人間以下のものを祭つたのと――を祀つたものとの二つに分けることが出來る。人間を祀つたものゝ中にも、祖先を祭つたものと、國家の功臣偉人を祭つたものとの別があり、祖先を祭つたものゝ中にも、更に皇室の祖先例へば天照大神であるとか、神武天皇であるとかいふ方々を祭つたのと、臣民の祖先、假へば中臣氏の祖先は天兒屋命を祭り、忌部氏の祖先は天太玉命、荒木田氏の祖先は天見通命、度會氏の天村雲命、といふ風に、氏の祖先を祭つたものとがある。處が中には物部氏の石上神に於けるが如く、或は藤原氏の鹿島香取兩神宮に於けるが如く、血族的關係はないが一氏累世擧つて尊崇する神を祭つたのもある。

それから國家の功臣を祭つたものでは、武內宿禰であるとか、菅原道眞であるとか、楠正成であるとかいふ風に、忠義の爲めであるとか或は英雄であり社會の儀表である人間を祭つてゐる。

第二の超人間の側では、天地を創造し宇宙を主宰するところの造化の三神、天御中主神、高皇產靈神、神皇產靈神、之は人間以上の神樣で超人間の部である。處が人間以外のものとなると日の神月の神風の神雷神其他山だの海だのを支配する神樣水火を掌る神樣などがある。

□道德的の祭神と宗教的の祭神

更に之を道德的に見られる神樣と宗教的に見られる神樣と二つに分つ事が出來る。道德的の祭神は我皇室の祖先、及び臣民の氏神竝びに產土神――近來氏神と產土神とが滅茶々々になつて氏子も產子も一緒になつてゐるが、兎に角自分の氏族に關係あるものは道德的――それから偉人功臣を祭つたもの、之等は皆道德的の神樣である。

宗教的の祭神を擧げて見ると、超人間の神樣はすべて宗教的意義を有つてゐる。中には日本の國のものでなく外來移植の神樣がある。之は勿論宗教的である。又人間の禍福を司るといふ樣に、脅かしたり苦しめたりする惡い方の神樣と、幸福を與へる善い方の神樣とは、共に宗教的である。またそれ等の神樣の持たれた遺物、劍だとか鏡だとかいふ神物を神として祭つたのもある。又森羅萬象に不可思議の力を認めてこれを神として拜むものなど皆宗教的の神樣である。

而して今問題になつてゐる日本の神社の固有のものは、宗教的の神樣か、道德的の神樣かといふと、祖先を崇拜する英雄を崇拜するといふのは、宗教ではなく、明かに道德的である。神社といふ形式を取つて祖先尊敬を表現するといふのは日本特有のもので、日本の神社の眞意義は祖先崇拜と英雄崇拜といふことのみに依つて可能で、其他のものは我等が神社として崇敬すべき理由のないものである。即ち祖先崇拜は道德としては、これ程尊いものはない、之れ程高いものはないしかし宗教學で說くが如く、祖先崇拜を宗教と見るならば、それは無論可能ではあるが、極めて低級幼稚な宗教だといふことになるのである。即ち祖先崇拜は宗教としては低級であるが、道德としては最も高尙である。父母を尊敬するのは道德である。その又父母祖父母を尊敬するのは道德である。そ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

の又父母祖父母と遡つて祖先を尊敬するのは當然道德でなければならない。道德の中でも最も高尚なる道德の極致である。この爲に、少くとも日本に於ては神社崇敬は宗教に非ずして道德であると斷じなくてはならぬ。

□祭神果して尊敬に値するか

斯くの如く宗教と道德との二つに分けて見ると、始めて神社の意義が明かになる。そこで日本の神社が道德の對象であるとしたら、其中に祭られてゐる神樣は、道德的に尊敬を値するものでなくてはならぬのはいふ迄もないであらう。併し日本の多くの神樣は果して道德の對象として十分に尊敬を拂ふに足るかといふと、餘程問題である。祭神が狐であつたり鰯の頭であつたりすることは困る、鰯の頭も信心からと言はれるその宗教の時でも、鰯の頭では我慢が出來ない。況んや道德的にはとてもそれでは我慢の出來やう譯がない。

內務省が嘗て神社崇敬令を出して、神社參拜を奬勵したことがある。今迄村の端の藪の中に何だか宮の樣なものがある位にしか思つてゐなかつたものが、內務省からのお達しだといふので、俄に宮のなかつた處は宮を探し出し堀り出したことがある。學校の先生や村の人達は祭神か何かといふところ迄も研究しなかつたから、色々な喜劇が演ぜられた。某所で小學校の先生が生徒を伴れて探し出した宮の前に整列せしめ『氣を注けッ』『禮ッ！』と云つて參拜させたが、あとで段々聞くと野蠻時代には各國ともよくある生殖器崇拜で、御神體はそれによく似た石塊であつたといふ。果してそれが事實だとすると、この最敬禮は餘程奇拔な最敬禮だといふことになる。日露戰爭の後、靖國神社に戰死者が合祀されることになつた時、その戰死者の一人を長く食客として玄關に養つて置いた家の子供が『內に居た何雄さんも靖國神社に合祀されるの？』と聞くから『さうだ』と答へると、『いやになつちまふなあんな道樂者が神樣だなんて、もう靖國神社を拜むのは止さう』と子供が云つたといふ。靖國神社に祭るのは、放蕩無賴の青年としてゞは無く、その盡忠報國の精神であるから勿論問題では無いが、單純な子供の頭でかやうに考へたのにも同情すべき理由が無いでもない。

□漫然たる敬神思想の强要

神と云へば皆ひとしくや思ふらむ
　鳥なるもあり、虫なるもあり

と本居宣長は咏んだ。さういふ怪しい神樣を祭つて、尊敬しなくてはならぬと云つたつて困難である。歷代の內務大臣は地方長官を召集して、必ず神社崇敬に就て訓示をする、時としては如何にして敬神觀念を盛ならしむべきかといふ諮問案迄出ることがある。之は我々國民の頭に敬神の念が薄らぎつゝあるからといふのか、それともより濃厚にしやうといふのか、兎に角憂慮して敬神觀念の鼓吹に骨を折つてゐるのは事實である。けれども彼等は神樣の出發點を誤つてゐる。神社だから拜めと云つたつて今日ではさうはいかぬ。といふとそれが敬神觀念の薄らぎつゝある證據で、それだから困るといふかも知れぬが、併したゞ無暗に敬神を强いられたからと

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

て盲從的にたゞはい／＼と言つて居るといふやうな形式的敬神思想が何の役に立つものでもあるまい。まづ何よりも大切なことは神社の祭神が果して尊敬するに足るものであるか無いか、といふことを明かにし、道德的の對象としての神樣か宗教の對象としての神樣かを知らしめることが最も肝要である。然る後それが皇室の祖先であるか、氏の祖先であるか又は功臣を祭つたものであるなら、これを道德的に尊敬し、神體の分らないものは何とか整理すべきてないか。

□神道發達の略史

然らば神社と神道との關係をどう見るかといふと、是が却々厄介である。神道の中にも古神道、神社神道、宗派神道の三種類があり、宗派神道の中には十三派がある。故に單に神道と云つた處で古神道の事か、神社神道の事か宗派神道の事か分らぬ。日本の昔は所謂祭政一致で、祭りごと即ち政であつた、之が古神道である。聖德太子の時には朝鮮と支那から儒教と佛教とが來る、日本には古神道があつて甚だ錯雜したが。此時に當つて聖德太子が日本の神道は祭り事即ち政治儒教は道德、佛教は宗教としてお取入れになつた大手腕は眞に感歎の外はない。處が段々降つて本地垂跡の説などが起る之は新來の佛教と從來の日本の神道を取入れることを布教の便宜と考へたのもその原因の一であるが、兎も角日本の神樣は佛教の佛樣の權化だと唱へて、お寺とお宮が雜居するやうになつた。如斯にして日本の神道は佛教の間に入つて追々宗教化したのであるが、その後に或は唯一神道の勃興となり、社會神道（神佛習合）の唱道となり、神道復古運動が起り、世俗神道の興起から遂に墮落した淫祠邪教の流布となり、いよ／＼ます／＼神道及び神社は原始的の古意を失ひ、不純愚劣なものが多くなつて來たのである。

處が明治維新の時は神佛分離だ廢佛毀釋だと言つて、佛教は叩き潰せといふので、佛教はあはれな姿を呈したのみならず、神祇官を再興して祭政一致を復古しやうなどゝ夢想し、教部省を設けて政府自ら宗教事務を執らうとして、寺院も神社も宗教の機關に供し、芝の增上寺の本堂へ祭壇を設け、各宗の名僧知識が衣冠束帶で鯛を神前に供へるなどゝいふ滑稽まで起つた。しかしそれは全く何等功果を收め得ずして失敗に歸したのである。然るに明治十五年にはその正反對に出て神官の教導職兼補を禁じ、神社と宗派神道とを區別し、教部省を廢し、內務省に社寺局といふものを置いた。更に明治卅一年に社寺局を廢し神社局と宗教局とを內務省に置き、大正二年には文部省に宗教局を移し、宗派神道はその他の宗教と共にこゝで管掌し、內務省に神社局を殘して神社を管轄するといふ樣に、ちやんと立派に名分を明かにした。

然るにも拘らず、內務省自身、神社は宗教に非ずとし乍ら他面宗教として崇拜するのが最も正しいかの樣に思はれるやうな訓示をすることもある。どうも怪しからぬと基督教や佛教の人が抗議をすると、そんなことはない。ちやんと宗派神道は文部省神社は內務省と別れてゐる位で、本省で神社を宗教として扱ふ譯がないと斷言する。制度はいかにもさうなつてゐるから、其上抗議のしやうもなく引下るが、さて併し乍

ら國民の大多數はどうかといふと、神社に宗教的の歸依をなしてゐるのは掩ふ可からざる事實である。そこで問題となる。

□某宗派神道神社を冒瀆す

既に説くが如く神社が宗教であつてならぬのは明々白々であつて、制度の上にも明示されてあるのだが、宗派神道の中にも宗教と見てならぬのがある。宗派神道の中にも日本建國の祖神たる神樣を自分の宗教の本尊にしてゐる。我々が天照皇大神に額く心持は、病氣平癒を祈り金儲を願ふ。そんな事はなかるべきであるが、事實あるのはどうしたものか。

宗派神道の中には、どうか助け給へ拂ひ給へ清め給へ、そして自分の身體の禍を防ぎ福を授からむと天照皇大神に低級なる宗教的歸依をしてゐる宗派がある。我々は憲法によつて信教の自由を保障されてゐる。佛教信者は基督教の神を拜まない。基督教信者は佛教の佛を拜まない。同樣に佛教若くは基督教を信ずるものは、宗派神道の本尊を拜まないでもいゝそれは帝國憲法が保障してゐる。處が其の宗派神道の中には天照皇大神を本尊にしてゐるものがある。それでは日本國民として天照皇大神を拜まぬでもいゝか？そんなものはあるまいがあつたとしたらどうする。けれども信教は自由だから斷乎として拜まぬでもいゝと云ひ得るではないか、憲法の上からも信仰の上からも。

我々日本國民は伊勢の大廟に行くと、何事のおはしますか知らなくとも自ら頭が下る。拜まぬでもいゝの悪いのつてそんな事は問題でない。自然に頭が下るのだ、それでは此の矛盾をどうするか、是が伊勢の大廟に參つた基督教の人々が時々ひつかゝる原因ではあるまいか、之は宗派神道の本尊としての天照皇大神と、國祖を尊崇する神社の祭神としての天照皇大神とを混淆したからであるが、這麼に複雜すると一寸迷ふ。伊勢の大廟は無論拜まねばならぬ。併し乍ら宗派神道の神樣なら、天照皇大神であらうと何神であらうが、信教の自由によつて拜まぬでもいゝ、そんな使ひ分けは困る。之は神社の尊嚴を宗派神道によつて冒瀆されて居るものである。故に若しさういふ宗派神道があるなら、解散して欲しい。

□某々宗派神道を解散せよ

それには斯ういふ適例がある。曾て、神宮教といふものがあつた。宗派神道中最も勝れた宗派であつたのだが、この宗教としての本尊と道德の對象としての祭神との混淆に氣がついたので、民法の實施と同時に、公法人である神宮教といふ宗派を解散して、私法人たる財團法人とした、それが即ち今の神宮奉齋會である。若し殘された神道十三派中この種の宗派があるならば神宮教のひそみに倣つて潔く解散せよ、そして他の適當な名儀にすべきである。全く無くなして了へば更に結構である。あまり頭のよくない國民に、宗派神道の神樣と神社神道の神樣は同一の神であるか、別な神であるかなどといふ疑惑を起させる樣なものは、早く解散して貰ひたい。飽迄宗派として保存して行きたいなら、その本尊を改めて日本國民の道德の對象としての神樣を利用することは止めて貰ひたいと思ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

また自分はいつも國葬を見る度に思ふ。國葬のお葬式は乾度何神社の宮司といふ人がやる。併し葬式を宮司がやるといふのはどうてあらう。出雲の大社には千家男と北島男とがあつて、北島男は出雲教會の教導職て、千家男は大社の宮司にして同時に大社教の教導職てある。故に一面は內務省の神社局の下に働く役人て、一面は文部省の教導職といふ事になるそこて大社の宮司としては國民何人も道德的に拜まなくてはならぬお宮を司り、一方には宗派神道の大社教の頭なら、國民としては拜んても拜まぬてもいゝ神樣に仕へてゐるといふことになる。斯樣に考へて來ると問題は前の明治神宮に立歸つて明治神宮は一體宗教かどうか。といふことを深刻に考へて見なければならなくなる。

□明治神宮の尊嚴を潰す勿れ

天照皇大神はあまり遠くして宗教の本尊だか道德の對象だか容易に分らない、といふものがあるかも知れない。併し明治神宮の祭神明治天皇は、つい此間迄父子の情を以て相對した親しみの多い方にましますす。此のお方に對して『どうか金が儲かりますす樣に』とか『病氣が癒りますやうに』とかいふ氣分になれるかどうか、一體何故に明治神宮へお賽錢を上げるのか、又明治神官てはお札を出すのか、國民が勝手に願ふのだから何とお願しても仕方がないといふかも知れぬが、清淨な御前に立つて迷信的な空氣を流して行くのを見ると、明治大帝の御靈を冒瀆し奉るの感に堪えないてはないか。

且つ明治神宮が出來ると一度に御輿が澤山市中に殖えて來た。內務省が靑年團に靑年會館を作れといふので問題になつてゐるが、それと同樣な關係があつてあんなに一度に御輿が出來たのかどうか知らぬが、まるて流行感冒の樣に一度に御輿が殖えた。そして其の御輿を擔いて酒を飮んて、ひよつとこ踊りを眺める……。そんなことて敬神思想が養へると思ふなら甚だお芽出度いてはないか、あれては國民を迷信的に誘ひ得るかも知れぬが、健全な敬神思想を養ふことにはならぬ。

要之、日本の神社は道德的の存在たらしめねばならぬ。如斯にして敬神は說かずとも行はれる。まごまごすると神體は生殖器だなど〻いふんては、敬神の行はれる譯がない。而して宗敎的の色彩を帶びた多くの神社は、淫祠邪敎として叩き潰して了ふか、自然に衰ふるを待つかといふと、大本敎の樣に私は思切つて打壞す方に贊成する。併しあれても民間信仰として自然の盛衰に任すといふならそれもよからう。又宗敎發達の研究材料として學者がその保存を必要とするならばそれにも强いて反對しやうといふのてはない、要は吾等の神社は徹頭徹尾道德的存在てあらしめたいと主張するのてある。

▲酒の釀造高は最近卅年間に左の如く增加して居る。

	釀造石高	金額	一年間一人平均
明治卅年	四、三七二、三七五	一五三、九五八、三六五、七五	三圓五十六錢
同四十年	四、七八五、四八九	一七六、〇七四、四五九、六四	三圓六十一錢
大正六年	五、九一五、七四二	三三五、〇六三、九一〇、九七	五圓七十七錢

▲大正七年乃至九年は、戰時よりの好景氣の影響を受けて實に異常の增額を示した。

緊急なる社會政策

法學博士 山脇玄

□生活問題の解決

近來漸く社會政策といふ事に政府も目覺めて來た樣であるのは、先以て喜ばしいことであるが、その爲す處を觀るに、如何にも消極的微溫的であつて、一として根本に觸れたる施設を見ないのは甚だ遺憾である。

社會政策中、今日の急務はどうしても第一生活問題の解決であらねばならぬ。就中緊要なるは食料問題である。食と色とは人生の二大本能であつて、近來性の問題が盛んになつて來たのは、元より其の處であらう。乍併色の問題は直に生存を脅かさないから、食の問題より餘裕があると見ることも出來る。所謂衣食足つて禮節を知るで、生活に苦しんでゐては國家の爲めも社會の爲めもあつたものではない。此の生命に關はる大問題に對する從來政府の遣り方を觀るに、一向どうも徹底しないのである。之はもつと大英斷を要すると思ふ。法律を以て最高限と最低限度の公定價格を設くるのもその一方法である。併し私はそれと共に官營を主張したいと思ふ。米、味噌、醬油、竝に綿類を官營にするのである。官營と云つたからとて、官が農業をやるのではない。百姓から買取るのである。今日の百姓は水田を耕作するだけでは生活が出來ない。副業をやつて辛つと生活を維持してゐるのである。少くとも七八分位の利益がなくては氣の毒であるが、今日は五朱位のものだといふ。されば政府は直接百姓からも少し高く買つて安く賣るのである。今迄は百姓から仲にもう一度も二度も仲買があつて、問屋の手に渡し、それから小賣商人に移されるのであるから、其間に取られる手數料は大變である。暴利取締などやつたつて到底うまくは行かぬ。取れる樣な組織にしておいて取るなと云つたつて實行が難かしい。それよりも其麼事の出來ない組織にするに限る。卽ち官營にすれば仲買の手數料を省き、且つ時間も經濟である。政府は買收に要したる實費だけをかけて、國民に配付することにすれば、現在より二割以上、物によつては五割も六割も安くなるであらう。現に煙草や鹽が官營になつてゐるので、何れ程國民が得してゐるか分らぬ。私の處では問屋から取つてゐるが六七年前一俵一圓六七十錢であつたのが、今日も尙ほ二圓以上にならぬのである。之が官營でなかつたら、物價の暴騰に從つて二倍乃至三倍の値となつてゐるに相違ない。

故に國民の必需品米、味噌、醬油、鹽、竝に綿類——絹布はいゝだらう、木綿さへあれば生活は出來るから——は之を官營にすべきである。今度の米穀令では政府は五十萬圓を支

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

出して倉庫を作るとかいふ話である。倉庫はどうせ官營にしても必要だから良いが、之を適當の時期に賣拂ふなどといふことは旨く行くものでない。今日の姑息なる米穀法はどうせ駄目に定まつてゐる。外國米の如きも、政府が買入れても仲仲食はぬ。肉體の勞働者はあんなものではいかぬ。あれては身體が持てぬ。自然副食物に金をかける樣になるから何にもならぬ。

□中產階級の漸滅と職業紹介

今日日用品は戰前に比較して二倍以上高くなつてゐる。日本の物價は誰でも云ふが外國以上である。然るに收入は其割に上つてゐない。殊に國民の中堅たる有識中產階級が、段々下層階級の中に陷りつゝあつて、日本には殆んど中產階級が亡び、少數の上流と多數の下流階級とになつて來た。百姓も、中農が無くなつて小農が殖える。之は社會として最も不健全なる狀態である。外國の堅固なのは中流階級が堅實だからである。獨逸が確乎してゐたのは中流階級が確乎してゐたからである。獨逸では學問をするのは中流で、役人になるのも中流社會であつた。獨逸では役人になるには三年間無給で見習をしなくてはならぬが、獨逸の中流は三年間無給で堪えられるだけの小金を持つてゐた。戰時公債も大部分は中額の應募者であつた。上流は陸海軍人となり、中流は官吏となつて國民生活を支配してゐた。此の大切なる中堅の有識階級が、今や我國に於ては漸次滅亡し、生活に苦しんで餘力なきの狀態であることは、文化の進步國運の發展の爲めに寒心すべきこと、云はねばならぬ。

次には失業問題であつて、之を救濟するには職業紹介を盛んにせねばならぬ。今日でも失業問題が大分起りつゝあるが政府の放漫なる政治の結果日本の物價が暴騰して、製造工業が止まる。獨逸からは安い染料が押寄せて來て、日本の染料工業は忽ちばた〳〵と倒れた。次には藥品である。英米にしても尚且つ染料や藥では、戰後の獨逸に壓倒されかゝつてゐる。日本などは元より對抗は出來ないから、之れから益々各種の製品が日本を襲ふて來て、日本の製造工業がバタ〳〵倒れ、大恐慌時代が來はしないかと、恐れざるを得ない狀態であるが、さてさうなると失業問題は愈々危險なる性質を帶びて來る。そこで職業紹介の事業は、宜しく個人や都市に任せないで、英國の如く政府がやらなくてはいかぬ。太平洋會議の如きは最も好機會であるから、職業紹介を世界共通とし、佛蘭西へでも何處へでも日本の失業者を送る樣に國際化すべきである。現に今日でもブラジルの如きは、日本の勞働者を特別に歡迎してゐるのであるから、之亦國家事業として失業問題を解決して行く樣にしたいと思ふ。

□勞働保險法と勞働組合

勞働保險法を定むることも緊急なる事業である。之は巴里の講和會議で既に定まつてゐるのであるが、日本は未だに調査中で困る。英國では勞働組合の中に設けてあるが、之はやはり獨逸に倣つて强制保險法を設くる必要がある。

次に勞働組合を公認することである。之は資本主が嫌ふけ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

れども、英國の樣に早く資本家と勞働者と政府とが協議する處迄進まぬと國民の一大不幸である。英國では炭坑の大同盟の如く、すぐ政府が調停に盡力する。然るに日本では資本家の味方をして勞働者を壓迫する。斯くして爭議が永びく樣になれば、それは資本家の損失のみならず、國家の損失國民の損失である。勞働組合といふものがあると、そこには立派な政治家とも云ふ事の出來る幹部があつて、その幹部と交渉するから、職工の要求が那邊にあつて、如何にして之を解決すべきかといふことが、容易に協議されて、罷業を未然に防ぐことも出來る。又例へば今新に造船所を設くるに就て、熟練なる職工が千人必要だと云ふ時に、勞働組合に申込めば、直に適當な人々を送つて呉れる。勞働組合は又教育を行つて勞働者の智能を發達せしむる、保健も組合でやるから、能率が増進する、現に日本に於ても砲兵工廠では、勞働者の幹部が自費で學校を作つて教育をしてゐるのを私は知つてゐる。

外國では今日は消費組合のみならず、生産組合まで作つてゐる。斯くて始めて資本家と戰ふことが出來るのである。一體生産は資本だけで出來るものでなく、資本と勞働と科學の三つが寄つて成立するのであるから、一方を壓迫して其發達を願つても能ふものでない。されば文明國では必ず科學者を雇ふてゐる。戰前或る獨逸の製糖會社の如きは、四百人の學者を擁へてゐた。日本でも自分の知つてゐる處では、小林ライオン本舗に於ては研究所を設け、七人の齒科醫藥劑師を有してゐる。此の三つを協力せしむるには、どうしても勞働組合を認むることが必要なので、それは資本家の爲めにも政府の爲めにも利益であるから、一日も早く之を成長せしむるやうにしたいものである。

□普通選擧と國民教育

次に普通選擧を實行するのである。無産階級にも選擧權を與へて政治上の責任を有たしむることは、實にその輕擧妄動を愼ましめる原因となるのである。三圓迄の二圓迄のといふ樣なことをしないで、思ひ切つて普通選擧にしなくてはいかぬ。若し無産階級が議會政治に信頼しなくなる樣なことがあれば、それは實に戰慄すべき結果を來すのである。故に彼等をして政治上の責任を負はしめなくてはいかぬ。

近來はまた住宅難の聲が喧しい。之れなども政府事業でやつた方が良い。低利資金を融通してやらせる位なら、直接やつた方がいゝではないか。月島の住宅なども未だに請負でごた〳〵してゐるが、斯樣な弊害を防ぐには直營に限るのである。場所の選定の如きも、明き地を求めて遠い處に建てたんでは役に立たぬ。やはり其工場に近い便利な地を選ばねばならぬ。それにはやはり政府の方が都合がよい。

一體土木局なども各省で持つてゐるのは間違つてゐる。各省で豫算の分け取りをやるのは損な話である。之は一ヶ所に纒められる性質のもので、さうすると技術者も少くて濟むし買入も一手で濟み、能率が擧がる。我々の家庭の煮焚き同樣せめて飯だけでも配る樣になれば非常に經濟である。それには大藏省に纒むるのが一番である。さうして小學校の建築も住宅の建築も皆一手でやるのである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

次に最も大切なるは國民教育の問題である。凡ての問題の根本はやはりどうしても國民教育でなくてはならぬ。其點からいふと今度の調査會の整理問題の如きは、全く時勢に逆行する暴擧たるは言を俟たぬ。整理の餘地はあるかも知れないが、いくら擴張しても不足なるは教育である。政府は大正八年から十二年度にかけて繼續に高等教育の擴張を行ふことになつたが、それは元より良い事であるけれども、更に必要にして根本たるは初等教育の完成でなくてはならぬ。然も政府は之を整理し其費用を削減し、甚しきは愚劣なる昇格問題などを惹起してゐるのである。けれども社會政策の根本は皆此の教育の一點に歸着して來るのであるから、此の國民教育の費用も貧乏なる地方費の支辨とせず、國庫支辨として大に擴張充實を期しなくてはならぬ。

□財源は軍備の縮少による

さてそれでは以上の様な施設をなす費用は何處から出るかといふ事になる。處がそれに於ては今日は絶好の機會である。それは軍備の縮少によつて容易に得られるのである。五億の軍費を一億制限することが出來れば優に以上の問題が解決せられるのである。私は海軍よりも實は陸軍に目を附けてゐる者である。日本は四面をめぐらすに海を以てしてゐるから、どうしても海軍は必要である。貿易を行ふにも之を保護する爲めに必要である。英國の海軍の發達も世界の各地に貿易をなす必要から來て居るといふことが出來る。乍併陸軍に至つては內部の秩序維持と、海岸防禦だけでよいのである。大陸へ日本の兵を出すといふ様なことは今日に於ては全く空想に過ぎぬ。財力なくしては不可能である。日清日露の兩役の様にばた〱形がつく様な戰爭ではなくなつた、今後の戰爭は國民と國民の戰爭であるから、財力の豐富な國が結局の勝を占むるのである。即ち國民皆兵の時代であつて、何百萬といふ大兵が必要になつて來て、平時に常備軍を擁する時代てなくなつた。

□精神改造の時代

今日は改造の時代であるが、政治上の組織とか經濟上の組織とかいふものは、我國も文明國に傚つて皆改造されてゐる。大正の年代に於ては精神上の改造が必要である。いくら制度上の改造が出來ても精神上の改造が出來なければ其の運用が出來ない。今日迄は政府の當局は權力を以て人民を支配して來たが、政府は國の爲めの世話人である。是迄は權力で壓して來た。昔はそれでよかつたが、今日は社會の空氣が違ふ。『社會奉仕』といふ考が役人の頭に必要な時代となつた。實業家も自分の爲めに生產するだけではいかぬ、社會の爲めに國家の爲めにとの精神を以て生產しなければならぬ。自分の業を盛んにする爲めには人の業をも盛んにせねばならぬ。大合同が日本に出來ぬのは此の考にならぬからで、私利私慾を專らにする考を改めて社會奉仕をなしつゝ、自分の發展を圖る様に精神の改造をしなければいかぬ。是が今日の日本の非常な缺陷である。

英國では今に新刑法もなく新民法も出來ぬ。そんなことはなくても頭が改造されてゐるから、立派な裁判が出來る。憲法の如きも一向纒まつてゐない。とても一寸行つて調べた位では英國の憲法は分らぬ。殆んど慣例だけで、組織立つた成文がないから、調ぶると云つたつて容易ならぬ事業である。處が英國の議會は其爲めに何の不都合もなく、最も進んだ議會が出來てゐるのである。そして獨逸のグナイストといふ偉い學者が、十七年間かゝつて英國の憲法史を作つた。英國人は平氣で、外國人は英國の憲法の研究に困るから、外國人によりて始めて纒められた様な狀態で、他國の英國憲法を研究するものはお蔭で大助かりをする事になつた。けれども實は法よりも人其の宜しきを得さへすれば良いのである。大岡裁判がそれである。法律に拘泥せぬからあゝいふ名裁判が出來た。今日の日本裁判は法律に拘泥して却つていけない。之は頭の改造が出來てゐないからである。

邪魔になるのはいつも此の古い頭である。廢娼論にしても、禁酒論にしてもいつも此の古い頭が邪魔をする。今日の日本は先づ制度の改造よりも精神を改造せなければならぬ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

國際平和の基礎

同志社大學總長　海老名彈正

□一種の矛盾を感ずる心の慨き

吾々人間として、又宗教心を持つてゐる者として、心の奥底に一種の慨きのあることは云ひ消すことが出來ぬ。其の慨きは何てあるかと云はゞ、即ち心の願たる理想と現實との衝突である。是れは吾々人類が生れ乍らにして持つてゐるものである。之を大にして言へば凡有方面に於て一種の矛盾を感ずるのである。私共の心の奥底に矛盾を感ずる所に世界平和の基礎が隱れて居る。矛盾は何時か一致すべく出て來る。又それが來ると云ふ望みと信仰がある。こゝは深き宗教的信仰である。そしてそこに一種のビジョンを見るのである。

舊約聖書に依ればアダム、イブはエデンの樂園に置かれた。然るに罪を犯したる爲めに樂園を追ひ出された。そこにビジョンを見るのである。支那人も同じ昔誠に平和があつた。然るに聖人起りて大盜生る。聖人死せざれば大盜絶えずと云ふことになつた。然るに一方に豫言がある。世界平和の時來るならば獅子と赤兒と毒蛇が一つとなつて親しむと。哲學者も一つの理想を有して居る。又中庸に『船車所レ至人力所レ通天之所レ覆地之所レ載日月所レ照霜露所レ墜凡有二血氣一者莫レ不レ尊親故曰配レ天』とある。又プラトーは共和國を理想した。組織的に人類相愛し相助くべき道を理想したのである。人の心に根柢あり理性ありて、世界平和の基礎が宿つてゐる。理性の根本は天にある。モーゼ、プラトーは善なる神を信ずるのて、世界平和の種が宿るのである。そして眞の識者が矛盾を感じて、そこに言ひ知れぬ慨きがある。

□平和の眞髓たる友愛の精神

又我國の今日は夫婦の道が發達せず、舊來の夫婦別ありの面影が殘つて居り、夫は尊く婦は卑しい狀態にある。併し此夫婦が眞の一體にならなければ、眞の平和がないのである。然らざれば武裝的壓迫的である。一家の中の平和は眞の友愛が成立つて、立派の夫婦が出來るのである。此友愛の精神が根本眞髓となつて村や部落をなし、眞の平和が來るのである。そして更に大きく國をなすのである。即ち我國家の平和は望むことが出來た。德川の二百五十年間眞の平和起らず、明治に至りて出來て來たのである。慨きたるものは家庭、村國家に喜びとなつて來た。昔に比すれば非常の相違である。斯くの如く進むならば、列國の平和の如きも、その素養と發

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

展に依つて出來ると申し得るのである。併し出來ると見る人と出來ぬと見る人がある。

又昔時經濟は自營自足であつたが、今は世界共通的である經濟的關係は一國だけでは出來ない德川時代に二百五十年掛つて人口の殖えないのは、食物不足に原因して居る。そして夥しく赤ん坊を殺したのである。多分一年に十萬人位は殺したらうと思ふ。然るに明治維新以來人口殖えて約二倍となり、只今は年々五十萬人、增殖であるそして世界の物資に由る甚大である。彼の獨逸は戰爭前より自營自足主義を實行して見たが、その悲慘なる戰敗は到底自營自足主義の不可能事たることを證據立てた。

□溫愛なる父子の宗教的觀念

食物分配は實に世界的である。世間では往々正耶の時と云ふことを申すのであるが、吾々は此正耶の時のないことを圖らねばならぬ。そして眞の世界平和を望まざるを得ぬ。又世界の人が學問の普及に依つて戰爭を防ぐこと丶なる。戰爭は壓制的であるから、自由平等を愛する者は、此戰爭を嫌ふのであつて容易に戰爭をせぬ。昔は容易に死んだ、又德川時代に小供を殺すことは、勇氣を有する者の善き行爲として、偉いと云はれた。昔は死ぬことが偉かつたが、今は生きることを考ふるのである。科學の進歩は一度に人口百萬の都市を殺すことも出來、誠に殘酷である。それ故に吾々は此戰爭を廢めて生きる道を講ぜねばならぬ。もう一つ宗教は如何になりつ丶あるかと云ふことである。五十年前より成り掛つて居ることは、宗教の根本義は儀式、信條、議論、哲學でなく、天の父と叫ぶ所に徹底して來た。

眞に愛慕する精神、父と子は慈愛、此思想感情は五十年前以來皷吹せられたのである。五十年前の宣教師は愛よりも信條を說いたのである。トルストイは曰く「平和は望まれぬ併しその奧の深き所に平和の根本義が潜んで居る」と。その潜めるものが今勃發しつ丶あるので、世界平和の曙光が認め得らる丶のである。それ故に世界平和は空想でなく、ユートピヤでない。最後に政治上に就て、世界平和の根本義を實現しつ丶あるのである。そして個性と普及性とが錯綜するのであるが、併しそこに眞の調和を認め得るのである。例へば日本に於て國家主義と個人主義と正反對の如くであるが、其の奧深き所に一致點を見出し得るのである。之を大きくして考ふるならば、國と國とが聯合して行ける譯である。

□個人と國家と世界との眞正なる調和

合衆國は多くの州が合して居つて、共和政治をなしてゐる。マサチユーセットの方面に獨立記念の碑文が建つて居つて、ユナイテッド、ステーツの意義に關し記してゐるのを見たが要するに各州の者が協力して獨立の旗を揚げ以て一つとなつたのである。

そこで爰に一番大切なる事は、吾々の精神氣分である。それは個性は何處迄も重んずると同時に其の愛國心に依つてより大なるものを打ち建つることである。或る人は個性尊重は愛國心を滅じて仕舞ふと云ふのであるが、決してさうでない予は國家及世界の將來に對し、大なる信仰と希望を有する者である。神の世界は矛盾が多いけれども、そこに一つの調和が執れるのである。それは丁度ピアノの如きものである。上手にやらせるならば、個性を守るだけそれだけ調和がある神は音樂者ピアニストである。個人性を持つだけそれだけ、立派なる調和である。又或に風と潮に流されて行く船があるとして、何れが強きかを考ふるならば、勿論潮流の引力である。風は空氣の變動に過ぎぬが、潮は月と太陽との遠い關係である、單に波瀾のみを見て怪疑心を出す人は、淺薄な人である。吾人は宜しく此潮流の平和者を以て任じて、大いに此根抵あり基礎ある所の世界平和の爲めに努力せればならぬと信ずるのである。（講演大要文責在記者）

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

最後の審判

一條忠衛

一 倫理學説と家庭

私は目下私と同様に倫理學を專攻して居るK先生と云ふ專門學者の家庭に起きた男女問題に就いて、相談相手の一人になつて居る。この倫理學者は知名な學者であつて、數冊の著述もあり、或る學校の教授でもあり、博文强記を以て當代の學者として許されて居る人である。殊に獨創的な研究を得意として學界の重鎭たる人である。

K先生は常にグリーンの自我實現説を奉じてこれを改造しようと企てゝ居る。自我實現説には色々な缺點があるので今日ではこの學説を奉ずる倫理學徒は殆ど無いと言はれて居る。然るに先生はこの現代の倫理學者に見捨てられた自我實現説を復活させて、更に新しく權威あるものに作り上げようと努力して、數通の論文を書いて居る。爾來、自我實現説の缺點として指摘された點は、この學説が餘りに自我の個性を尊ぶが爲めに、個人主義主我主義に陷る傾向があつて、社會的方面を輕んずる點もあつた。それでグリーン以後の倫理學者はこれを改造して從來の自我實現説を個人的自我實現説と命名し、新に社會的自我實現説を提唱するに至つた。ところがこの學説が次第に發達して見ると、又そこに弊害が起きた。今度は餘りに社會を重んじ過ぎて、個人を閑却する爲めに反つて人間の自由を拘束し、個性を蹂躙する傾を生じた。そこで最近の倫理學者はこの二つの方面を調和して、自我の個性を重んずると共に、その社會性をも重んじ、これを人格の可能性、又は潛在性と稱して人格實現説を提唱するに至つた。吉田靜致博士の如きはこれを同圓異中心主義といふ妙な名を付けて居られるが、矢張り人格主義の別名に外ならない。

ところが、K先生の意見では人格主義とか同圓異中心主義とか云ふものは惡いものでは無いが、何もさう苦んで新奇な名稱を附けて騒ぐ必要がない。自我實現説で充分である。若し自我實現説に缺點があるならば、内部の説明に於て改造すべきものであると主張するのである。けれども、一般の倫理學者の意見では、その内部の説明を如何に新しく改定しても自我の根本概念に於て既に缺陷があるとすれば、終に收拾すべからざる致命傷を有するものと見るのである。然るにK先生は頑然としてこれに反對して、自説を高調し、教壇に於て、講演に於て、著作論文に於て、斷々乎として猛進する人である。この點は洵に一代の學者であつて見上げた行動である。私は常にK先生の學説には滿足しないが、その學者的良心に對しては多大の敬意を拂つて居る一人である。

昨今K先生は自説を益々力説して思索の絶頂に達して居る。自我の實現の爲めには、個人は何うしても中心であり、社

會は客體である。自我の自由は宇宙の唯一樂園であり、人格の洞奧である。これを實現する爲めには凡らゆるものは犧牲にされなければならない。自己の絶對意志を生かして宇宙の大生命を求めるには總ての點に於て勇敢でなければならない。その前には道德もなく、哲學もなく、宗教もなく、政治もなく、法律もない。『我』は宇宙の將軍であり、『彼』はその從卒である。若し自我の實現の爲めに家庭が邪魔になれば、そんな家庭は葬つた方が可い。國家が邪魔になれば、そんな國家は破壞した方が可い。これがK先生最近の根本思想である。

二　倫理學者の家庭的不滿

K先生は本年四十二歲であるが、今から十七年前に結婚して居る。當時先生は田舍町の小學校敎師であつたが、夫人と云ふ人は町の素封家の娘であつた。その後、K先生は東京に出て苦學をして、或る大學を卒業した。その間に夫人はけなげにも工女になり、女事務員になり、時には汁粉屋にも化けて生活の糊を求めた夫人の衣類や持物も隨分あつたが、良人の肌着にしたり、質屋に流したりして、今は殆ど失つた。その後先生は或る都會の學校で倫理學の講師に聘せられてから稍々生活が樂になつた。雜誌や著述の方から這入る原稿料も可成り大きな額になつたので、夫人も非常に喜んで糟糠の時代を共に追懷して樂んだ、その間に子供は二人になつて賑な家庭になつた。

然るにK先生はその生來の神經質な憂欝的な賦性を滿足させる世界を見出すことが出來なかつた。先生は歌を作り、詩を詠じて、未知の世界に遊歷した。常に妻の無敎育なことを悲しく思つて居た。自我實現說を改造する新倫理學を提唱したギルドトップの論文に對しても、何等の理解もなく、喜悅を共に分つ能力なきことに對して、酷く落膽して居た。『お前は無學だ』と云ふ言葉が折々K先生の脣から漏れるので、夫人はその度每に死の宣告を受ける思で悲しんだ。時には大立廻りにもなつて近隣を驚かすこともあつた。K先生は夫人が質素朴訥で家庭の細君たることに甘じて居る態度に對して物足りなく思ふ人であつた。

先生は時々僞つて、家を出た。一寸神田の古本屋へ行くよと云ふ調子で家を出て一週間も十日も音信がなく、妻子を驚駭させたことは一度や二度では無かつた或る時先生は例によつて無斷で外出して幾日立つても歸らない。夫人は郷里に打電して先生の嚴父を呼び寄せた。嚴父は驚いて上京して令息の歸るを待つて居た。K先生は懷中が淋しくなると間もなく歸つて來た。先づ若し老父が來て居はしまいかと云ふ疑で、子供が通つて居る小學校へ行つて小使室に現はれ、そつと子供を呼んで尋ねた。果せる哉、嚴父は先生の歸るのを待つて居ると云ふので大に弱つたけれども、三十年も前の小供心になつて悄然として父の前に現はれた。果せる哉、落雷のやうな大喝に遭つて淚を流して謝罪した。その夜になつて先生は夫人に向つて云ふに、『お前は俺が無斷て家を出たことに對して、許して吳れるだらうな』と云つた。夫人が答へるに、『もう歸つて來て安心したから、許すも許さぬもあるもんですか』と云つたきりであつた。

或る時、K先生は敎壇の上から學生に向つて、『諸君は近き將來に結婚される場

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

合が出來たら、何う云ふ婦人を選ぶか、僕はその方法を敎へて遣らうか』と云つた。學生等はやんやと騷ぎ出して、『謹聽謹聽』と拍手て迎へると、先生は頗る眞面目な顔て云ふに、『先づ結婚しようとする婦人と夕暮にても郊外に散歩して、夕陽の沒する景色ても前に眺めながら、此處て一緒に死にませうと言ひ出すのてある。それては死にませうと應ずる者は、必ず我を愛する唯一の戀人てある』と云ふのてあつた。學生等はこれを聞いて啞然として質問も發しなかつたと云ふのである。K先生は或る時夫人に向つて云ふに、『僕と一緒に死んて呉れるほど僕を愛して呉れる女がないかな』と眞面目な顔て云つた。夫人は呆れて答辯に困つて居ると、『お前は何うだ』と來たので、夫人は失笑しながら云つた。『それは貴郞を愛して二人て死ぬことなどは最と易いが、二人の子供を何うしますか』と反問すると、『子供などを構つて居れる場合てあるもんか』と云ふ答だつた。これには夫人も腹立しくなつて、『貴郞は少し氣が變になつてますよ』と云つた切りて、相手にしなかつたと云ふのである。こんな生活を繼續しながら、K先生は新自我實現說の完成に向つて研究の歩を進めて居た。

三　倫理學者の最後の家出

然るにK先生は去月上旬突然旅行に行くと言ひ出した。夫人は少し病氣て居たので、二三日待つて貰ひたいと願つたが、そんな事は聞く耳持たぬと云ふ劍幕て無理矢理に出掛けた。二時間ばかり立つとSと云ふ女學生が訪ねて來た。夫人から事情を聞いて旅行先が解らぬので途方に暮れた樣てあつた。夫人は何用かと聞くと一寸伺ひ度い事があるのだと云つたまゝ立ち去つた、夫人は俄に一種の不安に襲はれて、胸騷ぎがして來た。良人の行動に對して烈しい憤怒を感じた。その後一週間ばかり經てから、良人から一葉の繪はがきが屆いた。場所は何處かと思つて文面よりも早く見ると『松島にて』としてあつた。消印も確に松島てある。夫人は失望の怒を發した。文句を讀むと景色が非常に好くて晴れ〴〵した心持になつたと書かれてあつた。夫人はこれに對しても、留守宅ては心配に心配を重ねた上に菜つ葉を食つて生きて居るのに、月給や原稿料を全部引つ攫つて、松島見物とは能くも洒落れ出したと憤怒の焰が炎々と燃え上つて、繪はがきはずた〳〵に引き裂かれた。夫人は良人とS女との經緯を考へるとぢつとしては居られなくなつて來た。K先生を平素極く懇意な人達に事件の鑑定や相談を乞はずに、何時迄も放任して置く譯には行かなくなつて來た。

私がこの事件の相談に預つたのは、その翌日であつた。夫人の話に依ればS女と云ふのは、先生の奉職して居る學校の女子聽講生であつて、今春四月に學校が始めて女子に聽講を許した際に、眞先に入學した女學生だと云ふことである。常にK先生の倫理學を崇拜して、先生の宅を三四度訪れた女だと云ふのである。先生の子供に色々な玩具を買つて來ては喜ばせて居た。S女は少しも遠慮せずにさつさと奧座敷に這入つて先生と極めて打ち解けて談笑して居たと云ふのである。八歲になる令孃が客の側て畫報などを見て居て中々書齋を離れないので、先生は『向ふへ行つて居なさい』と云つて叱つたりしたと云ふのである。令孃が母に告

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

げて言ふに「あの女がお父さまと何をお話するか聞いて居たの」と云つたので、夫人も子供心にも感付いて居るかと驚いたさうである。S女が歸るとなると、先生は必ず同行したさうだ。夫人に向つて云ふに「一寸散歩して來るよ」と先に立つて玄關に出ると、S女は夫人が裁縫して居る室を大股で跳ね越えながら、夫人を尻目に掛けて六な挨拶もせずに、逃げるやうにして歸つたと云ふのである。夫人はこの二人の行動を眼前に見せ付けられて少なからず憤激したが、良人が奉職して居る學校の教へ子でもあることだから、嫉妬がましい心は押し潰して堪へて居たと云ふやうな譯であつた。

私はこの話を聞いてK先生の行爲を非難せざるを得なかつた。僞つて家出することや、旅先の住所を知らさぬことは勿論惡いが、若い女を連れて妻が座つて居る鼻端を通つて「散歩して來るよ」に至つては能くもづう／＼しく言へたものだ。「倫理學者は必ずしも道德家に非ず」といふ言葉よ、私が始めて倫理學を研究し出した少年時代に知つた言葉であるが、まだその適切な實例にお目に掛らなかつたから感じも鈍ぶかつたが、倫理學者の夫人から面の當り聞かされ、二人の子供も口を揃へて父を罵つて居る光景に接しては、倫理學者の必ずしも道德家に非ざることを痛切に感じて、內心恐悚せざるを得なかつた。

四　留守宅の協議

私は夫人やK先生關係者の集つた席に列して、皆んなの意見を聞いて居た。甲は搜索願を出したら何うかと云ふ。乙は放任して置いて金が無くなつて歸るのを待つたら何うかと云ふ。夫人の意見では良人は自分と小競合の末は屹度「死んで了ふ」と口癖に言つた居た位だから、今度の家出は甚だ不安である。そして良人は倫理學者であつても、圓滿な先生方とは異り、非常に性癖が多く、風變りな突飛な狂氣じみた所があるから、自殺などは爲し兼ねぬ男である。持物着物のある內は賣り拂つて遊び拔いてから、裸一貫になつて心中する氣になれぬとも限らぬ。又しらばつくれて歸つて來て、學者の商賣道具だけ持ち出して石原さんのやうに大びらに同棲する氣かも知れない。さうすれば郷里の親達（K先生の親御達）は無論我が子に靡いて、終には離婚の相談ともなり、自分は丁度後藤助教授や工藤助教授の奧さん達のやうになるかも知れない。それて搜索費用を掛けて一旦家へ連れ返つたにせよ、その儘に收まる男てはない。何れ錆の入つた夫婦であるから、迚も圓滿な家庭は望まれない。それて放任して置いても一向惜しくない。今死んだ方が或は反つて小供の爲めになるかも知れない。親の不行儀を見せて置くよりも、その方が反つて可いとも思ふ。併し良人には田舍に老いた父母が居るから、搜索願を何ぜ出さなかつたと言はれると申譯が立たぬから、一應は出して見ませうかと云ふのである。

私は口を出した。それは御尤なことであつて、如何にも御想像の通りである。併しこれを民間の秘密探偵局に依賴して搜索しても、莫大な金を出さば兎も角、少しばかりの金などでは無責任な事は解り切つて居るから、金取手段の好餌にされては困る。そこで警察に願つて搜索することになるが、併しそれは考へ物てある。若しK先生がS女と同宿して居れば

必ず警察側からい、新聞の種にされて了ふ。學校敎師は素より著述論作まで駄目になつて、倫理學者の戀愛事件として社會を極端に騒がせた揚句に、その身は奈落の底に突き落とされることは必定だ。それてこれは劣策だ、天の下し給ふ鞭は受けぬ譯には行かぬが、良人憎さの餘りに、或は一片の義理立の爲めに、死屍を鞭つは宜しくない。臭い物に蓋をすると云ふ事は政治上の事件などの場合であれば、鼓を鳴らして責められても仕方がないが、家庭の内幕に關することは、子が親の爲めに隱し、妻は夫の爲めに隱すべきてある。人間には長所もあり短所もある。短所を笑はずに長所を譽むべきてある。『倫理學者は必ずしも道德家に非ず』と云ふことは悲しむべき言てあるが、K先生は短所の不道德を隱して長所の倫理學者て世を渡るべきてあるか、敎壇から見れば甚だ矛盾した言て値打がないが、家庭の人情としては止むを得ぬ窮餘の策てはあるまいか。

そこて問題は先づK先生がS女と同宿して居るか何[illegible]に就いて、若干の手掛りを見出すことてある。若し同棲して居れば先生がS女に住居を明したものに違がないさうすれば、親眼に觸れぬやうに前以て示し合せて居たのてあらう。それには金が先立つから、先生は金の出口に向つて住所を報告して居る筈だ。

この私の想像は適中して居た。そこて座中の一人は急に驅け出して心當りの雜誌社と書店を訪ねて、K氏の住所を尋ねて歩いたら果して一軒あつた。それによると仙臺市の某旅館てある。これには私も驚いた。仙臺市といへば、私が中學時代に五ケ年間居たところて、世に謂ゆる森の都と稱せられる地てある。そして近頃有名になつた石原博士對原阿佐緒君といふ人達が戀の相對性原理を實演して、大當りに當てた處だ。K先生は隨分な惡戲者だ、石原博士の二の舞を演じて、遙々奧州に下向したには驚いた、先生は何と思つて仙臺へなど行つたか、戀の聖地とても思つて順禮に出掛けた積りなのか。確かさうだ。死出の旅路に就く者は丁度蟻が砂糖に集まるやうに、華嚴の瀧だの、淺間の噴火口だの、犬吠ケ崎だのへ出張召さるやうに、先生はニユートンの物理學を覆したほど偉い戀の相對性原理の聖地たる仙臺へお出になつたのか。

これて先生の意中は釋然として理解された。私はK先生は必ずS女と同宿して、新に戀の樂園となつた森の都たる仙臺の○○旅館に、アダムとイヴとを極め込んてもう裸體になつて居ると見當を附けた。

K夫人は早速○○旅館主様として、良人の動靜を問ひ合せた、果せる哉、館主から一通の手紙が屆いた。それによるとK様が當館に滯在されたのは某日より某日までだとしてある。そして或る一日女學生風の女が訪ねて來たが、夕刻に歸つたとしてある。K様は同行して仙臺ステーションに見送りしたと書いてある。そして館主がK先生の行動が餘りに怪しかつたから、その時の車夫だつた者に尋ねて見ると、先生は上野までの切符を買つて同女に與へたとも書いてある。そして、或る日に一人の女學生風の女と商人風の男とが、その前の女學生風の女を探しに來たとも書いてある。併しその時にはK様は當館を立たれた後て、行先も告げずに出發されたとしてある。そして御兩人の間柄は水も漏らさぬ仲だと見受けたが實に悲しいことだと存じますとあつた。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

　これて樣子は先づ氷解されたやうなものである。夫人は殆と失神するばかりに呆れた。けれども、私はまだS女の在否を確めなければ同棲の判斷は下せぬと思つたから、急いで同女の通つて居る學校て親許の住所を調べて、S女の父を訪問した。電車を下りて川端を右に曲つて小路に出て、更に米屋と味噌屋の間といつたやうな極く狹い、兩肘の打つかるやうな路地を辿つて、裏長屋の行き詰りから二三軒手前と云つた所に、求める標札が懸つて居た、刺を通じて、私はKの知人てあつて留守宅を代表して來たと言つた十七八歳の少年に取次がれて火鉢の側へ座つた。私はこの少年がS女の弟だらうと思つたので、尋ねて見るとさうだつた。如何にも骨肉の悲しみを感じて居る面持である。姉君が家に居られるかと尋ねたら、行方不明だと云ふ。K先生の住居が解りませんかと尋ねると解らぬと答へる。少年は一入沈んだ顏で室を去つた。間もなくS女の父といふ人が外から歸つて來た。私はこの人と約三時間に亘つて話した。子を思ふ親心には、無限の悲の中に無限の憤りを含め、無限の愛を宿して居た。憎いし、可愛し、悲しいし、心は亂痲の樣な態であつた。母は田舍に居て、今病床に橫はつて居るといふ、話の內容が發展するに從つて、S女の親御は赤くなつたり、靑くなつたり歎息したり、高聲したり、又た無理に笑聲を出したりした。父が娘の學友を道案內にして、我が娘を探すに仙臺下りしても何等の手掛りがなくて失神の態で引き返した憐な旅行談も聞いた。私は父がその愛娘の家出に就いて、全く途方に暮れて居る有樣を眼前に見て、同情の涙に堪へなかつた。自我の實現に沒頭して居るK先生の學說が、一面に於て斯くまでも他人の自我を損傷して居るかと思ふと慄とした。

「私は兩人の間の戀は學問上の共鳴から來た譯を述べて、戀の道行に對して想像を乞ふた。令孃が倫理學に趣味を有たれたのは雞群中の一鶴とも言へるが、妻子のある男と手を取つて驅け落つるとは甚だしく非常識てある。Kは學者てあつて有名な人物だが、妻子を置き去りにして若い女と驅け落つるとは、是れ又た甚だしく非常識てある。併し人間には偉い所もあれば、馬鹿な所もあるのだから、釋迦でない限りは襤褸も出すと見なければならない。S家から見ればKを怨み、K家から見ればSを怨むは人情の免れぬところてあるが、男女の間違として此の際寛大の御慈悲を願ひたい。Kの身の上から言へば、學校敎師を棒に振り、著述も論文も題なしにして、お負けに社會から笑物にされるを承知の上て令孃を戀して心中も辭さぬとすれば、是れ又た女たらしの不良靑年とは質が違ふことを御諒解願ひたい。幾ら丹靑して育てた草花ても一夜の嵐に散らされる例しがあるから、自然のなす惡戲だと見て戴きたい。それて今度の方針に就いてはお互に感情に走ることなしに、同一の步調を取つて共に悲しみ、共に極秘にして行きたい。

　S女の父は心には飽くまでもK先生を憎いと思ふだらうけれども、口には漏さずに、私の意見に對しては始終鄭重な辭禮で迎へた。我が子の至らぬを悲しむより外に詮方ないとは、幾度も繰返した言葉であつた。私はこの長い對話の中に、K先生がS女を四回もこの家に訪ねてとを、その親の口から聞いた時には全く

呆れて了つた。身は妻子もあり、教職にもあり、當代の思想家として許される倫理學者が、こんな遠い所の裏長屋の隅つこの方に來て格子戸を能くも四回まで開けられたもんだと思ふと、先生も隨分馬鹿になつて來たと思つた。邊りを見廻はせば見廻はすほど、あの大學者が克くもこんな裏長屋へ來て、娘のやうに若い女と巫山戯ちらしたかと思ふと戀の盲目性に驚かされた。

それから對話中に私はS女の親御が娘の學友と仙臺下りの折に、その學友から道中話に聞いたK先生の石原觀なるものを又聞きした。S女の學友が云ふに、K先生は學校の教壇の上で、先月學生から石原觀を尋問された時に自分は石原君の行爲は天地に恥づる所がないと思ふと言つたとのことである。私はこの話を聞いても更に呆れて物が言へなかつた。私の石原觀や後藤觀や工藤觀を述べて、戀の傳染病に就いて批評して親御さんに聞かせた。

五　倫理學者の夫人の決心

私がこの話を齎らしてK夫人に告げた時には、良人の行動に呆れ果て丶すつかり愛憎を盡かして、隱れ忍んで妻の人格を侮辱して居た行爲を憎むよりも、その恐ろしい良人の痴態に魂消て來た。女の方から四度訪ねて來たから、こつちからも禮の積りで馬鹿正直に四度訪ねて行つたとは憎らしいも憎らしいが、見下げ果てた亭主殿かなと冷笑するやうに心機一轉した。毎日朝から七八圓づつ掴み出して行つて夜の十二時頃に無一文で歸つて來た理由が、遠鏡で見る繪はがきのやうに見え出した。夫人は良人の人格を極端に侮蔑し始めた、搜索どころか、そんな戲け者はもう構ふなと云ふ權幕である。子供に向つて悲壯な語調で、『お前達もあきらめろ。あんな糞たれ親爺！死んでも生きても構はないで置け。これからお母さんがお前達を養つて行かう。』『お母さん？お父さんはあの女と一緒に居るんてせうか。』『勿論一緒よ。私達を捨て丶あの女と一緒に居るのよ。』『僕が行つてお父さんだけ連れて來たいな。』『駄目よ、何處に隱れて居るか解らないんだもの。』

夫人の想像では二人は心中して居るかも知れないと云ふ。何の面でおめ〜〜歸れますかと云ふのである。假令、歸つたにせよ、蝎のやうな女に縋り付かれて居る男を夫に仰いで何處に家庭がありますか。斷然離婚して了ふといふ。

『お前達二人、お父さんの方に行くか。新しいお母さんに可愛がられていゝたらう。』

『僕アいやだ〜〜。』

『わたいもいやだわ、母ちやん。』

斯う云ふ會話が續いて悲劇は次第に酣になつて來たので、私は居たたまらなくなつた。凡らゆる慰の言葉も、一木の大厦を支へる眞似に異ならない。もう駄目だ光明は刻一刻に消えて來た。求めんとする愛は深淵に沈んだ。暗黒の怒濤が襲つて來た。運命の惡魔は大手を擴げて、この倫理學者の家庭を一擊の下に破壞した世に正義人道を教へる道德の殿堂に對して、この光景は何たる皮肉な取扱であるか。殊に糟糠の妻は堂より下さずとは誰が言つたか、今K先生は糟糠の妻を苦もなく堂より蹴落した。親子の情とは何ものを指して云ふか。K先生は二人の子供を惜しげもなく、惡魔の前に犧牲に供した。もうこれてK先生の宇宙破壞は全

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

部濟んだ。眼前に橫はるものは死か生かだ、若し先生にして生に慴れるならば、先生は直ちに生命の建設に取り掛るだらう。道德を捨て、地位を捨て、名譽を捨て、唯だ一人の戀人を得ることによつて社會に大びらに生きて行くだらう。殊に近來、石原教授でも、後藤工藤等の助教授でも、大びらに生きて居るのであるから、K先生も心中の道行を俄に變更して樂しい家庭に向つて旅裝を急ぐかも知れない。けれども、樂しい家庭は何處にあるか。現實の社會を超越して、自我の超越世界を自由に戀の行脚をしても、探し兼ねたとすれば、矢張還俗して現實の社會に入つて求めるより外に方法が無からう。

然るに石原氏や後藤工藤の諸君が現實の社會に入つて、樂しい家庭を求めることの極めて困難な事情に遭遇して居るやうに、K先生が求めようとするユートピヤもこの現實の社會に於ては不可能である。何ぜなれば、一般の社會に於ては極端なる自由を愛する自我は發育する餘地がないからである。そこで折角建設に取り掛つた新しい家庭も甚だしく不快な穢土に化して來る。惡魔は第二の悲劇を演ずる爲めに、有らゆる道具立をして背景に苦心して居る。K先生は今やこの恐ろしい背景の上に立つて、再び放牛を求めんが爲めに、自我の森を跋渉しなければならぬ羽目に陷る運勢がある。

六　審判の日は來た

播いた種子は穫らざるを得ない。奉じた學說は實行せざるを得ない。K先生は自我實現說に對する改造の勇士であつた。先生は自己の打ち立てた學說に向つて斷々乎として打ち向つた。その求めた答へを驗算する暇もなく、無二無三に猪突して自由の山に登つた。その後姿は見る人をして敬慕の念を起させた。山頂に於ける自我實現の世界は極めて廣く見えた。何ものも自分の自由を妨げる者がなく、何人も自己を方便とする者はなかつた。星は我が魂の友となり、月は我が心の糧となつて吳れた。K先生はこの個人の絕對世界に於て、思ふがまゝに行動することが出來た。殊に人間の根本生命として欲求する男女の性を極めて自由に、極めて安價に、甚だ容易に飽滿することが出來た。斯くして先生は最も完全に自我の性的實現の喜悅の餘り、凱歌を奏することが出來た。生れて嘗て一度の歌だに歌つたことの無いK先生も、大に歌ひ大に踊つて戀神の腕に仆れた。歡樂の夢は千代を經る松の綠のやうに思はれた。

併し審判の日は次第に近いて來た。個人の自我は如何に絕對の世界に住み、歡樂の世界に醉つても、社會的自我たることを免れなかつた。人格の世界は個人の自我には無くて、個人と社會とを調和した人性の上に嚴存した。自我の實現は個人と社會とを人性の各要素とする人格の實現の上に行はれるのであつた。K先生はこの吾々の信ずる倫理學說に反對して自由行動を取つたが、遂にその實行に於て理論の敗北を證明するに至つた。特に人性の根本動向たる性慾の實現に於て、主我的な戀愛を撰んで人格的な戀愛を無視したことによつて、最も鮮に自己の倫理學說に對して鼎の輕重を驗した。けれども、親を捨て、妻子を捨て、地位を捨て、名譽を捨てゝまでも自己の學說の實行者となつて仆れたK先生は、殉教者の一人とも言へる、私はたゞ瞑目して先生の亡魂を吊ひたい。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

墨西哥に於ける婦人参政權運動

白萩子

歳おし迫つた昨年の十二月二十四日、墨西哥共和國に於ては、聯邦憲法、第三十五條、及び三十六條の、範圍擴大に依り、同國婦人に選擧權を與ふ可してふ、一の提案が、代議院(Chamber of Deputies)に於て朗讀された。此の論議は、墨西哥人の、其の婦人に對する、現在の態度を知るに至極興味ある事と信ずるので、今其の一部を譯出し、論議を進めて見度いと思ふて居る。

其の提案と言ふのは次の如きものである。

『……スカタレの社會黨は、從來インデアンを釋放し來り、且つ勞働者の一般狀態の改善、婦人の如く、印度人より更に甚しく、奴隷的境遇にある者を解放し、加之一般勞働者より、困苦、悲慘なる狀態にある、彼等婦人の地位の改善を計り來つた。

既婚者たると、未婚者たるとを問はず、又、貧賤なると、尊貴なるとを論ぜず、今日の一般女は、何れも男子の費用に、寄生生活をして生存して居る。將來の婦人の解放は、先つ婦人の經濟的解放より始められなければならない。女は凡ての活動場裡に於て、將に男と競爭を開始せんとしつつある。併し此の解放運動は必ずや完成されねばならない。而して、凡ての女の權利は、社會的に、且つ又政治的に、認められなければならない。

公許された賣淫は、近代社會の最大の恥辱である。公娼は、其の樓主により、彼女自身の如き型の男により、醫師により、又政府に依つて、共に利用されてゐる。

女の利用、征服は、多數の人間の、生活方法でなければならぬといふ事は、有り得べき事とは思はれない。女は自由戀愛と、男と同じく、女の幸福を求めんが爲め、試み得る、等しい權利を持つて居るものである。……

現今の社會に於て、女の境遇程、悲慘なものを、他に見出す事は困難である。女の運命は、耐へ難き二つの苦惱の內に、さまやうて居る。卽ち若し彼女が貧乏であれば、其れに對すべきは、仕事である。勞働である。此の勞働たる又最も重き種類のものであり、凡ての苦痛を伴ふたものであり、生き恥をさらし、敗德的行爲であり、一般の恥辱であり、餘儀なく引受けさせられるものであり、又公認さる可きものである。蓋し、其れは男の敗德的行爲に相合致するからである。

之れに反して、若し彼女が、金持であれば、其處には牢獄があるのだ。卽ち彼女自身の、家庭てふ牢獄である。其の牢獄には、彼女の名譽といふものが、あたかも、彼女が鳥でもあるかの樣に、守衛されて居る。其の鳥には、父親と、良人とが警戒嚴重に、飼つて居き、其れと同時に、彼等男等は、自らに、凡ての自由と、耽溺とを許して居る。

女は、自ら其れを維持せんが爲に、何の男の手より全く獨立するに非ざれば、何の自由も廻つて來ないのである。女が此の自由が獲得し得た時、始めて、彼女は戀の爲する事が出來、且つ夫れ自身、戀愛の爲に戀愛する事が出來る。

男は、精神的に破滅したエゴイズムに陷り、其の兩翼を切り取つて、遂に理想よりも切り取つて仕舞つたのである。……

『世の女の人達、私は貴方に要求する』何に故に吾人は、此の集會に來たか？過ぎし時代の、誤謬缺點を改革せないで何としやう。

吾々をして、過去の、ロマンチツクな政治を除かしめよ、吾々は、メキシコの女性を、鐵鎖につないで、非常なる誤つた事をして來た。而して、吾々の義務、吾々の社會的使命に覺醒して、吾々は、女の經濟的、社會的及び政治的の自由の門戸を、女性の爲に開放せしめよ、然らば明日は、否、恐らく今日から、ローマのグラクチの母なる、コルネリアの樣に、彼女は、國に自分の威力ある力を以て盡す事が出來る。而して、凡ての人に、正義の道と、義務の途とを示す事が出來るのである。吾人をして、女の生命と利益問題とに依り要求せられた、政治的權利を許せ。然らば、吾々は私人の權利と、其の義務とを子供に、正しく語る事が出來るのである。

吾々をして、家庭の言語と、變遷、宗教的理想も亦共に、之を忘れしむるな。蓋し其等は、人間性に非常な調和を與へたものであり、子供に、其の母から注入されたものである。何故ならば、彼女は丁度ヴェスタル・ヴァジンの樣に、自分の苦惱の內に、家庭の爐の火を番して來たからである。

母の市民的敎育は、現在、此のメキシコに於ては知られてゐない。が併し其れは、如何なる代價を拂つても、實現されねばならぬものである。

吾々は、彼等の義務の爲に斃れた、子供の基に、泣く英雄的な母性を有して居る。併し吾々は、未だ市民的な母を有つて居ない。市民的母、國の選手であり、而して敎育された、且つ未來の時代の賢き助言者である。

若し吾々が市民的母性を欲するなら、吾々は、凡てのメキシコ人の權利を保護する事に依つてのみ、之を求め得られるのである。殊に家庭に於ける女に、自由と正義に導き、凡ての公館に、主動的及び受動的權利を許し、不幸にも、全人口の八十パーセントは、無學文盲なる國民の內に、自由の回復に、何の妨害も之を許してはならない。上に示した如き理由に對し、諸君の考察の中に、次の如き提案を爲すものである。

法　令

共和國一般憲法の、第一條、第三十五條より第三十六條に、左記の如く附加さるべし。

第三十五條の各項に依つて獲得されたる特權、及び、第三十六條中に記載せられたる義務は、メキシコ婦人にして十八歲に到達したる既婚婦人、及び二十一歲に到達したる未婚婦人をも亦包含すべきものとす。

議會代表者に依つて署名

フェライプ及ベンジヤミン・プエルト、マヌエル・ペルズンサ、及エドムンド・ジー・カントン、

と追加さる可し。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

謎の世界吉原日記（七）

元吉原病院看護婦　田口和子

七月二十五日（金曜日、晴）

勤務後尾張町の覺醒社に行き、數冊の書籍を求め、歸途救世軍病院に愛妹を見舞ひ病院（吉原の）の話をしたり！地方と比べた、吉原の遊廓所感を聞かしたり、又！信仰上の話をし合ひ、神癒の著しきを共に感謝し祈りて、求めし内の二三册をおき別れて歸院し、當日其歸途電車中で、之れも今更らに感じた事でもないが、雷門で停車する前に車中の男子連（青年の）大きな聲で「オイ、まだ時間が早いよ、千束町通りでもひやかしてからに、しやうじやあないか…」「いや…いくら、あそこ（吉原遊廓）が夜中の商賣だからつて、夜つぴてさはいじやこつちの體がたまらないや！すぐと南千住行の電車に移つたがいゝ…」なんて恰もこれから見せに、行くんですと云つた風な、卵色の新調服に眞つ白ろな麥藁帽頂いた、會社員風の一群れが、今宵は殊に人の眼をひいた。私はふと心の内ちに、「夕べ！皆していやがり、うろさがつた相萬樓の馬鹿散財客はこの人達ではないか知ら！」、私等の睡眠を妨害したのは…」と、やがて南千住行になり又、同じ電車に乘り合ひたれば、私の好奇心再び起つて、山谷を下車するやわざ／＼あとつける…と云ふ程の考へでもないが、同じ道筋故ついで行つた、けれど！あつちに行つてよろ／＼、こつちに來てはよろ／＼…わざと道巾廣く取る樣な眞似して通行の邪魔をする、これが紳士と云はれるのか知ら‼、あれが會社か銀行かに出ては天晴れ一社員として、ヒゲをひねくり廻し乍ら事務を取る人たちか知ら！と思はれる樣な野卑な／＼俗歌を吟じつゝ、手を振り／＼道を歩いてる、そうして二三歩行つては卷煙草に火をつけ合ふので、私はがまんがしきれず「こんな人のあとをつけて行つたら、夜が明けつちやうは…めんどくさい…」と計り中をおしわけて、さつさと歸院してしまたのである。

七月二十七日（日曜日、晴）

婦人週報の其後、主筆小橋樣の御動靜は如何にと上野圖書館に久し振りで見に行くいよ／＼昨日で廢刊とか！こゝへ來ていつも、何よりの樂しみとして愛讀してた本のなくなる事は、惜しいけれど、研究の爲の渡歐であれば、私等日本女子のため實に大いなる喜びとしなければならぬと、他日を期待して早々に出館、病院の妹を見舞ひ、歸途！今日は雷門下車、いはゆる新らしい人々の一時問題を高めた十二階下をよく見ると、大げさな石川酒場の横手から入り、わざと曲り曲つた道を取り、同じ樣な大小無數のゴテ／＼したホール酒店の前や間を拔け、ズラリと並んだ活動寫眞町も通りやうやく十二階を後ろ手に仰ぐ場所に入る…こゝこそ公娼とその醜業を競ふ私娼窟である。小さな云ひわけ的な煙草屋、玩具屋、煙管屋、酒屋、其他雜貨屋等が角立つた位置に奥はもの皆、俗にシモタ屋と云つて無職業者の如き家々が軒を並べ、無名の軒燈が狹い小路を照らしてるのです、そして二疊か三疊位の一寸奥まつた一室から、あれが白首と云ふのだらうと思はれる樣な藝娼妓と同じ風情のおしろいの女が、一軒一人乃至二三人宛…人の足音がすると急いで境目の障子を明けたり、ノレンを揚げて見たり、窓から首だけ出して見たりして、道行く人の樣子を見てる、以前は鉄などよく引つ張つたと云ふが、今は餘りそれが見當らぬ、これをひやかす男は…と、注意するにやつぱり、中年、壯年者が一番多い！風姿から云へば、勞働者とも紳士ともつかぬ樣な人物、又は店員風の者が多い…と思つた、いつぞやは大變な觸れて、私娼退治をしたとか云ふがこれでも、退治たと云はれるのだらうか！まるで藝者屋や待合と同じ樣…而かも一と廓二た廓でなく、廣るい普通の人道を隔つれば、又向ふの千束町に…丁度吉原の手引でもして居る樣…尾を引きながら續いてやつてるのには、少なからず驚ろいちやつた。面白く感じたのは各軒燈が、無名なのである。觀音堂の裏手や象潟町にある名軒燈には堂々と、御待合某々…何々亭…云々家…と藝妓稼業をも其まゝに明記してるが、こゝでは何故か！淫賣家の看板を現はしてない、又入り口で男女が話してるのをきく爲めでもなく、奥まつた模樣をのぞくとすぐに話をやめてしまふ…　私は何だか！自分の樣な小さい者にまでかうして憚るのかとかあいそうになつたのである。とても／＼、公娼の差てないのですもの、政府や警視廳、或る一部の人々が藝妓、公娼を扱ておいて淫賣窟がどうだの斯うだのと、こんな小さい都に眼を止めて、重箱の隅をホジクル樣な眞似した…と、否！して居ると云ふのは、實に笑止千萬だよ！、斯んな所はどこでもきつと遊廓の近くにあるんだもの、根本の遊廓と云

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ふ物を取り除きさへすりやア、ひとりでに亡くなる事は知れ切った話だに……何と妙な矛盾した政府を執つて無駄骨折つてるのだらう…先見の明あり達識のお役人様計りで——

七月二十九日(火曜日、雨)

休暇番であれば、朝早くより出かけ先づ婦風會のことどもに付き依頼せし事もあり御見舞旁々本郷のT様御宅を訪ふ…帝室技藝員何々監査役と云ふ高かい大きい肩書の持主を主と仰ぐ人なれど、少しの高慢氣もなく自から一とつの畫室に招じて下すつた、いつぞや奥様よりもきいた事のある通り、全くどこにえも煙草や酒の香さえ見えない…御馳走計畫て、やつて來る所の新聞や雑誌記者を失望させるのだ…とは、痛快にもたのもしい事である。此のお方…クリスチヤンにあらずしてクリスチヤンが大好きて…御病中、毎朝毎夕…私に聖書を讀ませて下さつた、そして御自身渡歐時代數年に渡り直接に見聞しての、米國、英國、獨逸、佛蘭西、羅馬等の御感想を話して下すつたり、社會事業に付いての批判を遊ばしたり、私は隨分學ぶ點のあつた事を今も感謝してるのです、その中で女子商業校の主催にかゝはる花の日會を、御婦人達の暇つぶしにやる事て無意義千萬だの…救世軍の鍋集金は其骨折りは感謝するが貧民に、たゞてモチなどを配布すると云ふ事が氣に食はぬ…人間て者は自分で勞した汗の價を知らせねば有害だ…とか、國技館てやる所の角力を野蠻極まつた風習だ…節くれ立つた汚たない肉體をさらけ出してぶん投げ合ひなんかあんな物に興味を持つ奴の氣が知れぬ等…仰せた言葉は深く胸にとゞまつた一とつてある、そして今日も尚ほ今後の日本婦人が使命に付いての強き自覺を促がされ十二分の滿足もて、辭してホームを訪づれたのはもうお晝近くてあつた。神の試みた私のこゝえ來るのを、手を擴げて待つてる様…國元とよりの妹が、いとしくも懐かしい、悲哀に滿ちた願訴の手紙が永き無情を怨み机におかれてある。久し振りの筆蹟を讀み終へた私の心は果して、一時はかき亂された、そして愚かにも神の心を疑つたのである。何故と云つて…世の中にはいくらだつて立派な體質の所有者…學問、智識、才能、の兼れ備はつた人物もあるのに…、どうして神様は私の様な體も心も弱虫の子をお召しになるんだらう…私には〱やつぱり、この手紙にある通りほんとに靜かな、平和な彼の田舎がふさはしいんだのに!「死ぬ程好きだと云つた耶馬の森、あれ程迄に好んでゐた母の里なる内海の荒磯つて…」それは〱決して忘れたのではない! 捨てただけでもない、けれど〱神への報恩を濟まさては…私の負ひ目が承知をしないんだもの…ましてや天國に於ては、地上の何所よりも勝れた樂園があるんだから…れ、どうぞ〱、私の胸中を察して、もう斯る迷ひを生ぜしめないで頂戴…今の私はそうした問題に囚はれて、空しく手を働につけ後ろをかへり見るのときてはないんだから!!! さー!

八月一日(金曜日、雨)

やうやく吉原日記の原稿に取りかゝる、今日も本營の曾谷監軍は、二人の少女を淺草方面の警察から依頼されて連れ來られ、ホームの主任と應接室て「田舎え歸るがいゝか…それともこゝてしばらく皆と一同に、神様の話をきゝお針等のけいこして、どこかへ奉公にあがるがいゝか…そうしてお金でもためて歸る事にするがいゝか…どちらにする?」と云つて、うつむいたまゝ垢づいたユカタの袖をいぢつてばかり…なか〱返事をしない、主任たちは再び…「ねーはつきり云つて頂戴! 私たちあなたがたを世話して何一つ決して返せなんて事は云やしないんだから、安心して思ふまゝを云つてごらんなさいよ! どつちでも好きな方にさせるんだからね〱……」とくり返し〱て遂に(名はきゝもらしたが…)九州の佐賀より來たと云ふ一人の少女は、やゝ臆せずなり「私は紡績會社に入つてもふ百圓以上お母さんに送つてるから、旅費だけ送れと云やあぢきにくれますから、そうして田舎に歸ります、歸りたい一方て抜け出たんですから…」と、ウチが明き一人(新潟)の少女はとふと一言も言はないで、身一とつなれば主任が奥より持ち來たる合ひそふなサツパリした着物と着代へ、前掛け等買つて、一と先づ同じ様な境遇の人々が、今は清い空氣になじんで、せつせと(日曜…夜…食後を休む外)裁縫や、お洗濯してる所の一つ室へと導かれて行つたのである。今更ならなれど一時の迷から都を慕ふて無意識に、幸あるひなの里を飛び出す危険を偲んだり、十四五の少女の身として、僅か一年餘りの内ちに汚れし金ならぬ己が汗を流し得た百圓餘を送金する健氣さを感じたりしたのである、此の場合も私は、直ちに吉原病院へ入院中の患者各自が不甲斐ない生活振りを思ひ出し、慚愧に絶えなかつたと云ふは、彼女等の多くは(地方の病院に在りし時もである)は入る時分に、一時は何百圓と云ふ金を手にすれど、それは數年間全く囚はれの身となり、惡銭身につかずの例へ通り、ましてや身を飾るの商賣故…何に使ふともなくまたゝく間に失せて了ひ、(身附けミズ金など云つて、普通の身賣り高か以外に又二三百圓を借り、之を樓主に依つては「お前等が持つてゐては危いから預けろ必要に應じて着物はこしらへてやるから…」と巧みな口上て入る時分既に取り上げ、いざ何を買ひたいかにを買ひたいから…と氣兼れし乍ら請求すれば、惡魔見たいな苦がい〱いやな顔してねめつけるだけならまだしも、頭からはねつけ叱り飛ばされ、詮方なく親もとに泣きつきれだろ、そふした時、運よくも子煩惱の親ならば無理算段して送も、その場〱をつぐのふけれど、子を賣つて得た不正な金のいつまである筈もなく、遂には肉身の親子同志不和となり子に於ても只…人を怨み世を憎んで益々やけを起し、一つ所には辛抱し切れず、流浪の身となつて罪惡を重ねる…之を少女と比較して、如何に大きい相違だろふ…と泌じみと感じた。

◎大阪府の醜業婦

	二年	六年	七年	八年	九年	十年		入年
藝妓	三六六六	四五一五	五二二六	五一七八	五四一七	五〇一〇	殿業最	二二五七
娼妓	六一〇〇	六四三四	六六〇三	七三二二	七五八二	七九六〇	多	六年
酌人	一八七	六一六	六三〇	六三六	六七〇	六二一		四四四九

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

編輯之後

▲近來耳目を聳動する大事件は、いふ迄もなく原首相の暗殺された事である。我々は別に原氏の人格に尊敬をしない、又其の政治上の主義にも同意しかねる者てあるが、その偉大なる手腕に至つては全く現代政治家中の第一人者たる事は、恐らく何人も異議のない處てあらうと思ふ。從つて斯樣な人物を失ふことは、國家の一大損失たること疑ひない。

▲而も其の失ひ方が暗殺にあつたなどは、實に痛惜の感に堪えない。ど同時に今時暗殺などをやつて志士を氣取る樣な人間の居る事を悲しまざるを得ぬ。

▲顧るに財界の巨頭安田翁が殺されてから、まだ幾日も經たぬ、遺產處分のかたもつかぬ、墳墓の土が未だ乾かざるに又しても政界の巨人原氏が殺された。實に物騷な世の中になつたものだ、之れぢや金持にも大臣にもなるのは考へものになつて來た。

▲併し財界の巨頭安田翁、政界の偉人原氏、と斯う並べて考へて來ると、二人は何處かに似通つた點がある樣だ、それは何か、各其の志す方面に傑出してゐた事と、同時に德を積むといふ方面の比較的に閑却されてゐなかつたかとの疑ひてある。

▲歐洲の大戰亂は獨逸の力の哲學の破綻てあつた。安田翁の斃れたのも力の哲學の破綻てあり、原氏の殺されたのも力の信仰の破綻の樣に思はれる。

▲歐洲の戰亂によつて『力卽ち勝利』に非ずして、『正義卽勝利』といふ事を學んだ樣に、我々は兩個の巨人の血の洗禮を受けて『正義卽勝利』に目醒めねばならぬ。

▲それにしても明治維新當時てはあるまいし、今頃刺客が現はれて人心を恟々たらしめるなどとは、餘りに時代錯誤てはないか。けれども之は近來の生活不安、勞働者の自覺に伴ひ起つた惡現象て、國民思想の指導者取締者は深刻に考へなければならぬ問題てある。

▲此間安田翁を刺した朝日平吾といふ男の葬式が、僕のすぐ近所の大塚の何とかいふ寺て行はれた。それが電車通りの目立つ場所に麗々しく『故朝日平吾葬儀執行場』と大書した大きな立看板が二三日も前から立てゝあつた。それを見た僕は甚だ不快に感じた。朝日平吾の葬儀は極めて謹愼して行ふべき筈のものだ、それを堂々と國士志士の靈を弔ふ樣に大看板を電車通りに立てるなどは、何といふ不心得てあらう。警察も警察てある、當然遠慮せしめて內輪に行はしめてよい筈てある。あんなものを見た志操の定まらない者は、やはり朝日平吾も死後社會から尊敬される志士てあるといふ樣に感じて、必ずよい影響は與へないてあらうと、同行の荆妻に語つた事てあつた。

▲然るに今度原氏を刺した中岡艮一とかいふ少年は、何ぞ知らん大塚驛に勤務してゐる者てある。然らば近所の『朝日平吾葬儀』の立看板は彼の眼にも觸れたてあらう。而して彼に何等かの刺激を與へ、暗示を與へなかつたと誰が斷じ得るか。

▲原氏暗殺事件を少し遡つて、社會の耳目を聳動した今一つの事件がある。それは筑紫の女王と謳はれた伊藤燁子の家出事件てある。全國の各新聞紙は社會面の全面を費して此事件を報道し、更に連日その成立ちから評論に至るまで、爭つて掲げた。

▲自分は此事件が起る迄伊藤燁子なるものに就て全く無智識てあつた、その歌集も一度も播いた事はない、そして卒然家出事件を新聞て見、且つ絕緣狀なるものを讀んて、自分も之を婦人問題として評論を加へて見たいと思つた。然るにその後傳右衞門氏の駁論を讀み或は燁子が友人達に宛てた平素の手紙を見、更にふしだらな素行を知るに及んて、もううんざりして了つた。

▲彼は平民の子だなんて頻りに貴族を振り廻はしてゐるが、其母は藝妓てあるといふ處から考へて來ると、彼の身體には淫蕩の血が流れてゐるに違ひない。男との浮名を傳へられたのは何回だか分らぬといふ、殊に九大の某博士とは誰ても知つてゐる仲だつたとの話もある。更に驚ろいたのは宮崎某との待合通ひの新聞記事てある。もう斯うなつては、眞面目に論議するだけが馬鹿てある。

▲自分の夫に妾を取持つて、自分の人格がどうの、靈の目覺めのといふ。他人の人格を蹂躪するを憚らずして自分の人格の自覺がある筈はない、要するに戀だの自覺だのといふ文字を、彼の口に餘に汚される事を憤慨せざるを得ぬ。

▲あんな人間に筑紫の女王の尊號を奉つて、御機嫌を取つてゐた新聞も隨分な話てあるが、更に之を問題にして大騷ぎする社會も隨分馬鹿げてゐる。僕は始め眞面目に結婚問題を此事件によつて論評しやうと思つたけれども、賣笑婦にも劣る淺ましい行動を批判するの愚を思つて、止めた。

▲それにしても近來、どうして這麼に變な事件が多いたらう。自働車の運轉手と驅落が一頻り流行したかと思ふと、今度は大學敎授の不倫事件が流行する、石原博士、工藤、後藤の二助敎授、野村隈伴氏はとう〱今日の新聞によると心中までしてしまつた。やれ濱田家の事件、無我の愛の伊藤證信氏の夫人あさ子が十九も年下の男に戀をする、無我の愛だけに妬かれぬ伊藤證信氏がお氣の毒だ。

▲そして戀愛とさへ言へば無條件て新聞雜誌が同情するのは、何といふ不見識てあらう。僕も戀愛を結婚の第一要件とする論者てあるけれども、彼等のは何れを見渡しても、戀愛として尊敬するに足るものは殆んどない。皆卑しむべき肉慾の衝動に過ぎない、皆見苦しい姿を曝露して居るてはないか、社會はもつと愼重に批判し、戀愛を汚さない樣にせねばならぬ。

大正十年十一月十日印刷（每月一日十日發行）
大正十年十一月十日發行（一部定價金二十錢）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　本鄉區眞砂町三十六番地　佐藤駒次郎
印刷所　本鄉區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町七番地　廓清會發行所
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

◉御注文の際は必ず雑誌「廓清」による旨を申添を乞ふ◉

酒きらいになる薬

禁酒丸

一週分　一圓五十錢
二週分　二圓八十錢
三週分　四圓

どんな酒煙草のみても害なく心からきらいになる。郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の

禁酒禁煙論呈進

禁煙散

煙草きらいになる薬

金壹圓　金貳圓　金參圓

本舗　大阪船南通二丁目　森田商店

電話土佐堀二六〇二番
振替大阪二二一二六番

産婦人科。小兒科

女醫　鷲山改め　吉岡彌生

△院長診療　宅診午前　往診午後
△醫員診察　午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

新刊

侯爵　大隈重信序
博士　プリンス・マロー著
文學士　小松武治譯

健康と性慾

三六版百七十頁
特價三十錢稅四錢

廓清會本部發行

定價一册金二十錢

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可）（大正十年十一月十日印刷納本）（毎月一回十日發行）

大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋、警醒社、北隆館、[illegible]明堂